令和４年度文部科学省委託事業
「専修学校留学生の学びの支援推進事業」

コロナ禍を踏まえた各地域における
外国人留学生の戦略的受入に向けた体制整備

大阪型「専修学校留学生の学びの支援推進事業」２０２２

成果報告書

一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会

2023年2月

はじめに

一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会(以下、大専各)では、2007年の留学生委員会発足から、様々な外国人留学生（以下、留学生）に関わる取組みを行ってきました。特に留学生の専門学校教育に於いて『入学を考える、学ぶ、卒業後の進路としての就職まで導く』という入口から出口までの支援を体系化する事に力を注いでまいりました。この取組みは国内だけでなく国外にむけても積極的に行った結果、大阪の専門学校で学ぶ留学生数、そして受入れる専門学校数は大きく増えることとなりました。

このように順調に進んでいたものが、新型コロナウイルス感染猛威により、環境は大きく変わってしまいました。変化のひとつとして、まず海外との往来が制限され、留学生の新規入国の目途がたたなくなり、日本留学の受入れ窓口ともいえる日本語教育機関の疲弊は相当のものとなりました。そしてこの状況が、海外から日本留学希望者の意欲を削ぐ事につながり、それが将来的な日本留学離れにつながるかもしれないという懸念もありました。こういった状況の中で2022年3月、水際対策の緩和が示され、止まっていた留学生の受入れが再開されました。結果として2022年に入国した留学生数は、コロナ禍以前を遥かに上回る人数となり、前述の「日本留学希望者の意欲を削ぐ」という点においては、ひとまずの安堵につながっています。

しかし、このまま順風満帆だとは考えていません。コロナ禍の3年間、入口から出口までの留学生支援についても様々な課題が顕在化したと強く感じています。具体的課題と対する施策は、本成果報告書内で述べていますが、全体を通して言えることがあります。それは1学校ではなかなか向き合うには大きい課題も、本委託事業活動のもと専門学校の団体組織として向き合うことで、十分に取組み対応ができます。専門学校の団体組織として「まとまり」をもって活動する意義と重要性をあらためて見つめなおせる事業だと言えます。

留学生は、専門学校をはじめとする高等教育機関で高度な専門性・技術や日本語能力を身につけるのみならず、日本の文化を深く理解する貴重な人材です。そして今後ますます多様性が求められる時代において、活躍の場は広がり様々な業界で留学生の力は必要になってきます。だからこそ職業教育の担い手である専門学校がお互い手を取り合い、さらなる留学生への支援・教育に一層の理解を深めていくことをここに強く願います。

末筆ながら、本事業にご協力を頂きました関係各位の皆様方に心より御礼申し上げるとともに、今後も引き続き宜しくご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2023年2月

一般社団法人 大阪府専修学校各種学校連合会
留学生委員会
委員長　山下　裕貴

目　次

はじめに　1
目次　2
第１章：委託事業概要　3
１．委託事業名
２．委託事業実施期間
３．委託事業趣旨・目的
４．実施する取組の具体的内容　4

第２章：個別事業の実施内容　9
1.今年度に取り組んだ具体的な内容について　9
（１）取組別の具体的内容　9
【1】大専各留学生支援サイトの維持拡充　9
①「留学生支援サイト」年次情報更新、多言語化
②留学生支援サイトの維持拡充
③「留学生受入れ校一覧」の更新
④来日前学生と留学生採用企業の利用促進を目的とした新規情報ページ公開

【2】映像コンテンツの制作・配信　12
①専門学校卒業生／人事担当者のインタビュー動画　10種（校）
②専門学校卒業生／人事担当者のインタビュー動画のダイジェスト版　1種

【3】SNSマーケティング　13
①ベトナム対象Facebookの運用
②インドネシア対象Facebook＋Instagramの運用
③ネパール対象Facebookの運用

【4】進学情報カードおよび留学生支援サイトへの誘引ツールの制作・配布　15
①留学生採用検討企業向け誘引ツール
②日本語教育機関向け誘引ツール
③留学生受入れ校一覧　専門学校情報カード

【5】市場動向調査　17
専修学校、日本語教育機関、企業、留学生、海外現地教育機関への
アンケート調査、および分析報告書の作成

【6】海外教育機関へのオンライン出前授業　21

【7】関西 日本語学校・専門学校情報共有会　22

【8】専門学校教職員向けオンラインセミナー　24
「今こそ考える留学生支援 ーコロナ禍における専門学校のチャレンジー
① DX 人材としての留学生の可能性　24
② ポストコロナを見越した募集関係　25
③ 専門教育、就職のための日本語サポート教育　26
④ 留学生の採用拡大に向けて　27

【9】外国人留学生採用セミナー・交流会　28
テーマ：「外国人留学生採用フォーラム」
～ これからの多様化する社会に新たな価値を見出す人財とは ～

（２）事業実施によって達成する成果及び測定指標　30

（３）その他報告事項　34
【10】成果報告書
【11】委託事業成果PR動画

2.事業終了後に実施予定の取組及び成果の普及方策　34
3.事業実施に伴うアウトプット　35
（1）実施一覧　（2）アンケート結果（抜粋）　36
4.事業の実施体制　54
（1）実施体制　（2）構成機関等　（3）構成員等
（4）会議の開催と連携・協力体制

第１章　委託事業概要

１．委託事業名

令和4年度文部科学省委託事業「専修学校留学生の学びの支援推進事業」
コロナ禍を踏まえた各地域における外国人留学生の戦略的受入に向けた体制整備
大阪型「専修学校留学生の学びの支援推進事業」2022

２．委託事業実施期間　2022年６月15日～2023年3月1日

３．委託事業趣旨・目的

（１）事業の趣旨・目的について

ポストコロナで世界の留学生から選ばれる「大阪の専門学校」になるために
～職業教育を知ってもらう・理解してもらう・広めてもらう～

大専各は、これまで留学生支援として『入学を考える、学ぶ、就職まで導く』という入口から出口までの体系化に力を注いできた。国内外で積極的に活動を行ってきた結果、大阪の留学生を受入れる教育機関数、留学生数はコロナ禍前までは年々増加していた。しかしこのコロナ禍で国と国との往来が制限され、海外からの留学生受入れが止まったことで、日本留学の窓口ともいえる日本語学校が大変厳しい状況となった。この影響は専門学校・大学へと広がっており、これまで順調に留学生数は増え、かつ卒業後の就職実績も着実に積みあがっていた中でおきた大きな問題となっている。2022年3月より水際対策の緩和で海外からの留学生受入れの門戸は開かれたものの、決して先行きは安心できない。留学生受入れに積極的な他国との競争はこれまでにも増して激化すると考えられ、事実、隣国の韓国はコロナ禍の2年間で留学生受入れ数が増えている。そこであらためて日本留学への関心・魅力を海外にむけて発信するとともに、留学生教育、進路サポートもより充実させていく必要がある。こういったことを1専門学校として取組んでいくことは大切であるが、同時に団体として組織的活動をしっかり行っていきたい。そして日本語学校・企業・団体・行政までが一緒になり、「オール大阪」的視点で進めていくことは、大阪の専門学校がこのコロナ禍そしてポストコロナで世界の留学生から選ばれる礎だと考える。
大阪では、2025年大阪・関西万博の開催がある。これからますますグローバル的発想のもと多様性が求められる時代がくる。留学生の活躍の場が広がっていく明るい話題を増えるよう本事業を取り組んでいく。

（２）当該地域において取組を進める意義

ｉ）外国人留学生の受け入れ推進に向けたターゲット国（地域）

ベトナム	インドネシア	ネパール

ii）外国人留学生の受け入れ推進に向けたターゲット分野

文化・教養分野	工業分野	教育・社会福祉分野

大阪府内の専門学校在籍留学生数は、令和3年5月時点で8,777人となっており、府内104校で留学生を受入れている（※1）。コロナ禍前である令和元年では、8,742人105校の受入れであるため、大きな影響を受けていないようにみえる。しかし大阪府内おける日本語教育機関の在籍留学生数をみる限り、令和元年7,923人に対して令和3年3,923人とほぼ半減している。現状、専門学校に在籍している留学生の多くは、国内日本語学校経由で入学している割合が高く、日本語教育機関の在籍者数の減少余波は、上級校である専門学校のこれからの課題といえる。もちろん令和4年3月からの

水際対策緩和により、海外からの留学生受入れは再開されており、日本語教育機関の在籍者数の復調はみられているが、改めて量的拡充だけでなく質的拡充もふまえた留学生誘致が必要だと考える。そういった中、大阪には産官学が協力して『オール大阪』で留学生を支援する組織「留学生支援コンソーシアムがあり、そこで掲げるKGIの一つに「2030年度に府内留学生数5万人（経済波及効果893億円）」がある。以上から大専各としてもひとつの指針として取り組むものとする。

【ターゲット国】

専門学校との親和性、日本企業の経済進出、日本への関心度を鑑み、3国を選定した。

①**ベトナム**：府内の専門学校および日本語教育機関における在籍者数が最多で、これまでもターゲット国として様々な連携を行い、交流を深めてきた。

②**インドネシア**：令和元年度まで府内留学生数は増加傾向にあり、人口予測や日本語学習者数（※2）から将来性に期待できる。

③**ネパール**：府内において令和3年5月時点では6番目の人数であり、高等教育機関在籍学生のうち、89%が専修学校生であるため親和性が高い。

なお、令和3年度事業においてターゲットとしたオーストラリアは、SNSでの情報発信を中心に展開したものの期待した成果に繋がらなかったため、令和4年度はより高い成果をあげるためネパールに変更する。

【ターゲット分野】

府内の専門学校在籍留学生数上位3分野に設定するが、量的拡充と質的充実を図るため、分野問わず網羅的に成果を出せるよう取り組む。

※1 大阪府がJASSO）独立行政法人日本学生支援機構から留学生数等のデータ提供を受け、作成した府内留学生数等調査結果を参照。数値は専門学校だけでなく高等専門学校・準備教育課程に在籍している留学生を一部含む。
※2日本語学習者数 1中国2インドネシア3韓国4オーストラリア（国際交流基金「2018年度 日本語教育機関調査」）

4．実施する取組の具体的内容（事業計画時の内容）

（1）取組別の内容

〈A〉誘致広報（入学前）

「大阪の専門学校」に誘致広報するため、このコロナ禍に適したデジタルマーケティングを駆使した展開

広い視野で考えると、コロナ禍は、世界各国において留学生の獲得合戦を行う新たな時代に突入したといえるのではないか。だからこそ、1学校だけではできない専各団体として、大阪および専門学校の認知拡大と興味喚起を図り、日本留学希望者の母集団を拡げ量的拡充を目指す。

【1】大専各留学生支援サイトの維持拡充

情報発信における基幹メディアのWEBサイトは、令和3年度年間PV数65,000（前年比140%）、セッション数29,000（前年比209%）と大きく伸長、特に海外からのセッション数は4,950（前年比346%）となっており事業趣旨に応じた効果が表れている。これを維持し、更なる成果に繋がるよう改善していく。

〔KPI　月間セッション数：2,700　海外からの月間セッション数：600
PV/セッション数：3.0　月間直帰率：60%以下〕

【2】映像コンテンツの制作・配信

企業における職業教育への理解促進・留学生採用意欲の啓発は重要な課題であるため、「卒業生コンテンツ」を拡充し、企業に対する発信を強化する。

〔KPI　年度末合計再生回数：5,000〕

【３】SNSマーケティング

2021年11月～2022年3月まで複数のプラットフォームを運用し、種類・国によって反応が出てきている。（例：ベトナムFacebookリーチ667、インドネシアFacebookリーチ1,358）過年度の成果を基に取捨選択し、効果的・効率的に運用する。

〔KPI　フォロー総数：200　リーチ総数：3,000〕

※リーチ数：投稿された記事やアカウントを見たユーザー数

【４】進学情報カードおよび留学生支援サイトへの誘引ツールの制作・配布

留学生支援サイトをより多くのユーザーに閲覧してもらうため、国内向けにも誘引施策が必要。サイトへの誘引を促す広報ツールおよび、専門学校の留学生受け入れ状況を一覧化した情報誌を作成し、日本語教育機関、企業、行政、駐日外国公館等の関係機関へ配布する。

〔KPI　配布時期のアクセス数増加量と対象コンテンツのPV数を成果指標とする〕

〈B〉教育支援（在学中[教育指導、在籍管理、生活支援サポート]）

世界の留学生から選ばれるため「職業教育」をブラッシュアップ、かつ誘致広報をフォローしていく活動。

誘致広報をより効果的にすること、留学生に対する支援の質向上、そしてオンライン学習に係るコンテンツ提供に取り組む。

【５】市場動向調査

留学生を取り巻くステークホルダーの実態を把握し、必要な取り組みを進めるために実施する。また、環境改善の一助となるよう、調査対象者に広くフィードバックする。調査内容は行政・外部団体の協力を得て精査し、対象拡大、他団体との合同調査も模索することで、より有益な成果を目指す。

〔KPI　アンケート回答数　専修学校120校、留学生1,000人、日本語教育機関150校、企業500社、海外教育機関在籍学生300人〕

【６】海外教育機関へのオンライン出前授業

海外現地教育機関にオンライン授業を提供。過年度実績を踏まえ、対象校・授業実施校を拡大して展開する。出口（就職）を明示した職業教育理解促進・入学準備教育として、日本留学および、日本での就職促進に繋げる。また、独自に取り組む国内日本語教育機関向け出前授業にも、これらのノウハウを活用していく。

〔KPI　授業受講者数：300人　（現地10機関に対して専門学校20校の実施計画）〕

【７】関西 日本語学校・専門学校情報共有会

留学生にとって日本語力の向上だけでなく日本文化・生活の定着、進学指導に至るまできめ細かなサポートを行なっている日本語学校は、日本留学で重要な役割を担っている。だからこそ日本語学校・専門学校がともに情報・意見交換を行う場を設けることでよりスムーズな連携が期待できる。

〔KPI　3回開催〕

【８】専門学校教職員向けオンラインセミナー

留学生支援における課題や解決策等を専門学校間で共有し、専門学校教育の質的向上・発展を目的とする。令和3年度は、のべ約400名、うち70％が近畿エリア外から申込があったことから、全国の専門学校に波及する意義ある機会となっている。行政・協力団体等と連携し実施する。

〔KPI　3回開催　参加者数各130人〕

〈C〉就職支援（就職支援等）

「職業教育」の成果のひとつであり、日本留学の大きな特徴。留学生、企業が安心できる環境を整備。

留学生、企業が安心できる環境を整備すべく、「就職支援」として企業に対し留学生の人材として採用する意義を啓発し留学生採用意欲を向上する活動を展開する。今年度は「インターンシップの普及・活用」をテーマとして計画する。

【９】外国人留学生採用セミナー・交流会

過年度に続き、企業の留学生採用意欲向上は大きな課題である。だからこそ専門学校で学ぶ留学生は優秀であり、ますます多様性が求められるこれからの時代において、即戦力足り得る貴重な人材であることを啓発する場が必要である。本年度は、テーマにそった講演だけでなく、留学生による就職活動の実体験などをスピーチしてもらう場を設けることで、留学生採用を検討している企業の意欲向上につながるような取組みも設ける。またリアル開催とオンライン配信を組み合わせたハイブリッド型で実施し、より広域から参加できるよう工夫する。

〔KPI　参加者数：150人〕

（２）前述（１）の取組に付随して実施する取組（実態調査を含む）

１．事業を実施する上で設置する会議

①実施委員会（年2回）

企業・行政・教育機関等と連携を強化し、意見提言や実務協力を得る。また、今後の発展・活用について意見聴取を行う。

・2022年8月26日（金）　　・2023年2月10日（金）

②ワーキング会議（月1回・21校で構成）

事業実施のための現状と課題を共有・議論し、事業全般の計画策定・進捗管理を行い具体的に実行推進する。

・第1回2022年 6月17日（金）　・第2回2022年 7月15日（金）
・第3回2022年 8月26日（金）　・第4回2022年 9月16日（金）
・第5回2022年10月14日（金）　・第6回2022年11月18日（金）
・第7回2022年12月16日（金）　・第8回2023年 1月27日（金）
・第9回2023年 2月10日（金）

２．海外現地教育機関との連携

大専各ではこれまで、先の「専修学校留学生就職アシスト事業」「専修学校グローバル化対応推進支援事業」の下、日本留学と専修学校の職業教育理解を促進すべく、ベトナムをはじめとした海外現地教育機関と連携し交流を深めてきた。

具体的には、海外視察と現地教育機関との協議、職業教育理解促進セミナーの開催、現地教育機関での出前授業の実施、来日招聘と視察受入といった取組であり、直近でも海外現地教育機関との連携は活用している。令和3年度より、ベトナム国立ホーチミン市師範大学日本語学部長のチー先生に実施委員会として参加いただいている。また、令和3年、令和4年に大専各事業として実施しているオンライン進学相談会では、国立ホーチミン市師範大学（ベトナム）、タマサート大学（タイ）、帝京マレーシア日本語学院（マレーシア）にも参加いただき、大専各会員校と具体的な情報交換を図っている。

3. 三か年計画として段階的に大きな成果を目指す

令和3年度は「誘致広報」に重点を置き、大阪および専門学校の認知拡大と興味喚起を図り、日本留学希望者の母集団を拡げることと並行し、令和4年度に本格的に取り組む「教育支援」に向けて検証し礎を築く活動を行ってきた。

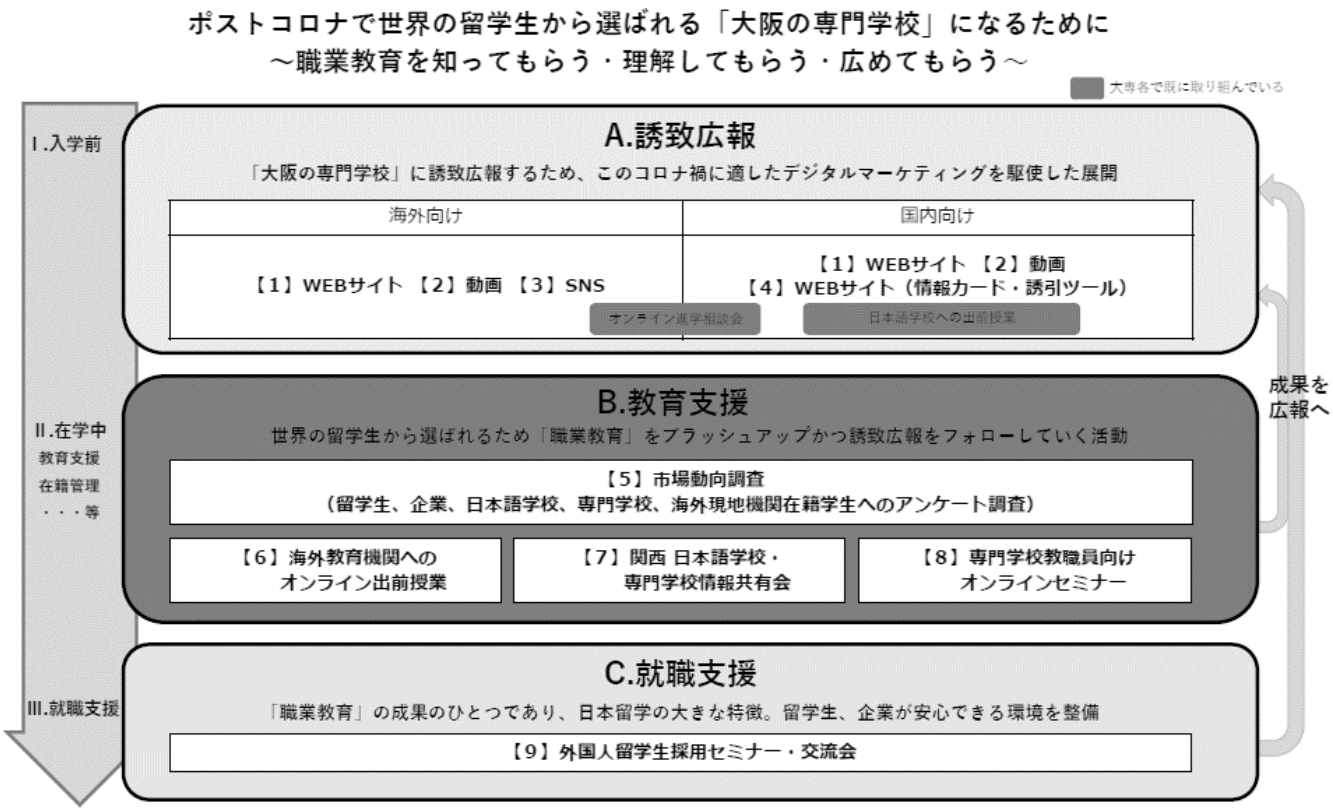
令和4年度は入国前に専門学校の学びに触れる機会の提供等、「教育支援」に重点を置く。また、拡充した教育支援を広く提供するため、「誘致広報」は継続して積極的に実施する。令和3年度に作成した海外展開用の誘致広報素材を十分検証した上で活用し、効率的・効果的に計画。

そして令和5年度は集大成として「就職支援」を日本留学・大阪留学の特徴としてアジアに誇れる水準に高める活動年度とする。就職支援を大阪留学の特徴に高めることは、短期の成果だけでなく留学生の母国における“日本留学予備層”を育てることにつながる。

このように、継続して「誘致広報」「教育支援」「就職支援」を推進し、留学意志決定後の留学誘導だけでなく、先行して予備軍を耕し動機づけ育て、そして入国後に充実したサポートを提供する。その事例をまた予備軍育成に役立てサイクルを回すことで効率的・継続的な循環を生み出すことを目指す。

（3）今年度に取組む具体的な内容について

取組の具体的な内容は、前述に記載しているが、各取組を俯瞰視すると以下のような体系化した流れとなる。



（４）事業実施に伴うアウトプット（事業計画時）

＜A.誘致広報＞

【１】大専各留学生支援サイトの維持拡充
①「留学生支援サイト」年次情報更新、多言語化
②留学生支援サイトの維持拡充
③「留学生受入れ校一覧」の更新
④来日前学生と留学生採用企業の利用促進を目的とした新規情報ページ公開

【２】映像コンテンツの制作・配信
①専門学校卒業生／人事担当者のインタビュー動画　10種（校）
②専門学校卒業生／人事担当者のインタビュー動画のダイジェスト版　1種

【３】SNSマーケティング
①ベトナム対象Facebookの運用
②インドネシア対象Facebook＋Instagramの運用
③ネパール対象Facebookの運用

【４】進学情報カードおよび留学生支援サイトへの誘引ツールの制作・配布
①留学生採用検討企業向け誘引ツール
②日本語教育機関向け誘引ツール
③留学生受入れ校一覧　専門学校情報カード

＜B.教育支援＞

【５】市場動向調査
専修学校、日本語教育機関、企業、留学生、海外現地教育機関へのアンケート調査、および分析報告書

【６】海外教育機関へのオンライン出前授業
2022年12月5～14日

【７】関西 日本語学校・専門学校情報共有会
①第1回：2022年6月14日（委託事業期間外）
②第2回：2022年9月9日
③第3回：2023年1月27日
・各開催時の議事録報告書（3回）

【８】専門学校教職員向けオンラインセミナー
①第1回：2022年6月30日
②第2回：2022年8月25日
③第3回：2022年10月27日
④第4回：2023年1月26日
・アンケート集計報告書（4回）
・アーカイブ動画（4回）

＜C.就職支援＞

【９】外国人留学生採用セミナー・交流会
2022年10月28日
・アンケート集計報告書
・アーカイブ動画

【10】成果報告書

【11】事業成果PR動画

1.今年度に取り組んだ具体的な内容について

（１）取組別の具体的内容

〈A〉誘致広報（入学前）

【1】大専各留学生支援サイトの維持拡充

①「留学生支援サイト」年次情報更新、多言語化

大専各留学生支援サイトの現況（解析期間2022年4月1日～2023年1月31日）
https://study-osaka.com/

セッション数	平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年度	4115.7	2701	3798	4231	3752	3977	4412	5607	4064	3896	4719		
2021年度	2423.2	1243	1613	2251	2200	1695	2212	3764	3130	2505	2930	2514	3021
2020年度	1152.8	667	608	842	907	777	1307	1567	1806	1321	1268	1133	1631

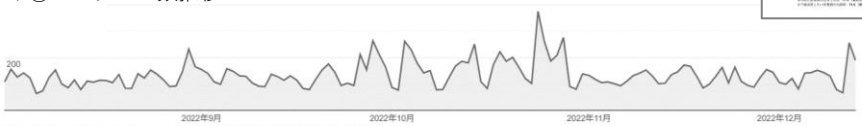
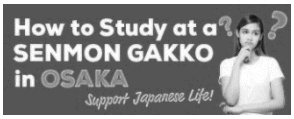
海外からのセッション数	平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年度	1094.3	632	1525	1426	963	979	998	1151	1035	1121	1113		
2021年度	410.3	173	177	296	579	244	302	393	532	433	514	639	642
2020年度	119.0	35	38	66	108	51	88	93	122	95	88	140	504

PV数/セッション	平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年度	2.0	1.98	2.07	2.02	2.14	2.03	2.06	1.93	1.93	2.01	1.99		
2021年度	2.22	2.38	2.46	2.07	2.29	2.4	2.01	2.71	2.53	2.07	2.02	1.88	1.81
2020年度	3.40	3.34	2.55	3.01	3.47	5.72	3.35	4.18	3.27	3.25	3.05	3.31	2.33

直帰率	平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年度	72.0%	75.27	64.77	66.11	71.83	72.42	73.39	75.19	75.17	72.74	73.15		
2021年度	69.4%	68.38	66.15	68.1	55.32	69.2	72.06	65.33	69.27	72.81	73.69	74.98	77.19
2020年度	58.2%	57.57	62.83	62.23	62.18	53.93	56.69	54.69	57.2	57.61	60.49	60.72	52.05

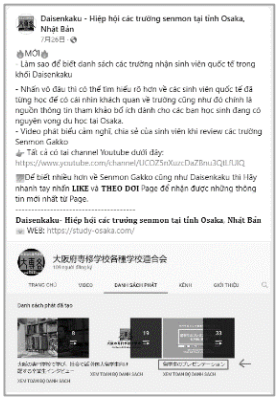
■サイト全体の概況
・国内外からのセッションが年々増加しており、サイト告知施策や関連イベントを開催した10月は過去最多となる5600超のセッション数を記録し、以降も高い数値を維持している。
・サイトの信頼度が上がり、Googleなどの検索エンジンで「外国人留学生」「senmon gakko」といった留学生に関連するキーワードで上位に表示されやすくなったため、自然流入によるアクセスも増加傾向にある。

■多言語化の概況
・多言語対応後の2021年10月以降、海外からの流入が増加。
・海外セッション数の増加に合わせてユーザー言語比率も変化し、約半数が日本語以外で閲覧されている。最多は英語で全体の25%、以降ベトナム7%、中国5%、インドネシア4%、台湾2%とつづく。
・中国語（簡体字・繁体字）、韓国語は現地からの閲覧が最多であり、その他言語は日本国内からの閲覧の傾向がある。
・前年度49カ国（地域）からの閲覧から、今年度141カ国（地域）と大幅に増加している。
・今年度のSNSからの流入はFacebookからの流入552が最多、ベトナムやネパールからの流入が目立つ。

1.取組名	**【1】大専各留学生支援サイトの維持拡充** ①「留学生支援サイト」年次情報更新、多言語化 ②留学生支援サイトの維持拡充 ③「留学生受入れ校一覧」の更新 ④来日前学生と留学生採用企業の利用促進を目的とした新規情報ページ公開
2.目的・概要	情報発信における基幹メディアのWEBサイトは、令和3年度年間PV数65,000（前年比140%）、セッション数29,000（前年比209%）と大きく伸長、特に海外からのセッション数は4,950（前年比346%）となっており事業趣旨に応じた効果が表れている。これを維持し、更なる成果に繋がるよう改善していく。
3.広報手法	留学生支援サイト
4.広報対象	海外向け・国内向け
5.実施内容	①サイト全体の多言語化維持 （英語、簡体字、繁体字、ベトナム語、インドネシア語、韓国語、ネパール語、ミャンマー語、タイ語） ②-1年次更新「留学生受け入れ校一覧の情報更新、各種コンテンツの情報更新」 ②-2悪化した直帰率の回復向上（導線の見直し、直帰率の高いページの改修） ③「留学生受入れ校一覧」の更新（②-1） ④渡日前留学生と留学生採用企業を対象としたコンテンツの拡充 ▼①多言語対応維持 ▼②-1年次更新：データで見る外国人留学生・アンケート ▼②-2アクセス数推移  ▼④新設：How to Study at a SENMON GAKKO in OSAKA 
6.KPI、 KPIの達成状況	KPI ①月間セッション数：2,700　②海外からの月間セッション数：600 ③PV/セッション数：3.0　④月間直帰率：60%以下 KPIの達成状況（※実装後の 2022年4月～2023年1月の平均値として） ①月間セッション数：4115　②海外からの月間セッション数：1094 ③PV/セッション数：2.0　④月間直帰率：72.5%

7.構成員	57ページに掲載
8. 成果、実施による効果	・継続する多言語化の取り組みにより多様な国と地域からの流入が更に拡大した。実装済みの他言語LPも英語、インドネシア語を中心に流入が増加傾向にある。特にインドネシア語LPは現地からの閲覧や高いクリック率が特長となっている。 ・直帰率に課題のあるコンテンツの改修により若干の数値改善がみられる。TOPページの直帰率は41.6%、平均PV数は4.59と想定ターゲットの閲覧状況は改善傾向にある。 ・各種コンテンツの更新と充実によりセッション数が大きく向上した。
9.新に健在化した課題	**・セッション数の増加に比例してセッション当たりの平均PV数と直帰率数値が前年比で悪化** セッション当たりのPV数や直帰率が前年比で悪化しており、背景に海外ユーザーと検索エンジンからのコンテンツへの直接流入増加がある。検索エンジンからの流入は「データで見る外国人留学生」が最多で、留学生関連の数値データに高い関心が伺える反面、セッション当たりのPV数や直帰率が悪く、平均を押し下げている。また海外からの当該ページへの流入は特に直帰率が高い。グラフなどの画像が自動翻訳されないことなどが要因として考えられる。 **・一部コンテンツのセッション数の伸び悩み** 「留学生受入れ校一覧」や「データで見る外国人留学生」は、セッション数が増える一方、「専門学校MOVIE」や「働く・活躍する卒業生」などのコンテンツのセッション数が伸び悩んでいる。要因として、セッション数に占める直接流入数に大きな違いがあり、TOPページからの流入数と各コンテンツのSEO対策が課題といえる。
10.本事業終了後の目指すべき指標	**・ターゲットごとに最適化したSEO対策と導線の見直し** まだ認知されていないコンテンツもあるものの、コンテンツ自体は充実しているものと考える。各コンテンツTOPのSEO対策を強化する一方で、サイト内動線の最適化を検討する。 TOPページの検索エンジンでの表示順位にも改善余地があるため、こちらもSEO対策を検討する。TOPページからの流入が増えることで数値改善が期待できる。 **・「自走できるサイト」をめざす** サイトへの誘引ツールやイベント開催に依ることなく、通年で留学生本人、日本語教育機関、専門学校、企業などの各ステークホルダーに見てもらえるサイトをめざす。具体的には、会員校からの情報を収集・発信する仕組みの更なる改善に取り組む。

1.取組名	**【2】映像コンテンツの制作・配信** ①専門学校卒業生／人事担当者のインタビュー動画　10種（校） ②専門学校卒業生／人事担当者のインタビュー動画のダイジェスト版　1種
2.目的・概要	企業における職業教育への理解促進・留学生採用意欲の啓発は重要な課題であるため、「卒業生コンテンツ」を拡充し、企業に対する発信を強化する。
3.広報手法	動画
4.広報対象	海外向け・国内向け
5.実施内容	**①「大阪の専門学校で学び、社会で活躍する卒業生インタビュー」の制作　翻訳および字幕追加（12校）** ＜参加校＞ エール学園（ネパール）、日本理工情報専門学校（ベトナム）、近畿社会福祉専門学校（ベトナム）、駿台観光＆外語ビジネス専門学校（ベトナム）、大阪YMCA国際専門学校（ネパール）、修成建設専門学校（ミャンマー）、清風情報工科学院（ベトナム）、関西外語専門学校　（韓国）、大阪総合デザイン専門学校（ベトナム）、大阪調理製菓専門学校ecoleUMEDA（中国）、日本メディカル福祉専門学校（韓国）、上田安子服飾専門学校（ベトナム） **②ダイジェスト版の制作（1本）** 大専各_大阪の専門学校で学び、社会で活躍する卒業生インタビュー【ダイジェスト版】2022 **③企業を主なターゲットとした、新規視聴者を獲得するための施策**
6.KPI、 KPIの達成状況	KPI　年度末合計再生回数：5,000 KPIの達成状況　年度末合計再生回数：6781
7.構成員	57ページに記載
8. 成果、実施による効果	・卒業生の活躍により、特に企業に対して外国人専門学校生の能力の高さや外国人材採用の重要性を訴求できた。 ・卒業生動画の英語字幕版により、渡日前を含む留学希望者にも伝えやすくなった。 ・企業向けセミナーや海外現地広報で活用されるなど、外国人専門学校生の理解促進に役立った。
9.新に健在化した課題	**・新規視聴者の獲得** 視聴者から高い評価を得られているものの、公開直後と比較すると視聴数が限定的である。告知方法や導線の見直しの必要がある。
10.本事業終了後の目指すべき指標	**・より多くのターゲットに視聴してもらうために** 優秀な留学生を採用することは企業にとっても有益であり、専門学校の留学生が優秀であることの周知は外国人材の採用促進につながる。これは留学生のニーズとも合致することであり、日本留学を促進するものと言える。 今後も卒業生の活躍に重点をおき、大専各が培ってきた連携団体とのつながりを通じて視聴機会の拡大をめざす。また、基幹サイトである留学生支援サイト上での動画視聴機会の増加を目的に導線の見直しを検討する。

1.取組名	**【3】SNSマーケティング** ①ベトナム対象Facebookの運用 ②インドネシア対象Facebook＋Instagramの運用 ③ネパール対象Facebookの運用
2.目的・概要	2021年11月～2022年3月まで複数のプラットフォームを運用し、種類・国によって反応が出てきている。（例：ベトナムFacebookリーチ667、インドネシアFacebookリーチ1,358）過年度の成果を基に取捨選択し、効果的・効率的に運用する。 ※リーチ数：投稿された記事やアカウントを見たユーザー数
3. 広報手法	Facebook・Instagram
4. 広報対象	ベトナム、インドネシア、ネパール
5.実施内容	◆SNS配信ページQRコード ・ベトナム、インドネシアは2021年11月1日より運用開始 ・ネパールは2022年7月より運用開始 ▲ベトナム　▲インドネシア　▲ネパール １）投稿頻度 週2回程度の投稿（記事は現地語に翻訳・基本的には各国同じ記事を投稿）。9月中旬より各校から提供いただいた記事を順次投稿 ２）投稿内容 「なぜ日本の大阪に留学？」「多くの留学生の注目を集めている専門学校」「留学先の調べ方（支援サイト受入れ校一覧ページへの誘導）」「大専各支援サイトの紹介」「大阪は魅力的な都市」「留学生プレゼン、卒業生インタビュー動画の紹介」「記事提供いただいた学校の紹介」等 ３）人気記事の特徴 ・複数の写真を掲載している　・写真の質がよい　・授業の写真　・設備の写真 ・学生による作品紹介　・在校生紹介　・アニメーション動画　等 ▼大専各動画コンテンツ紹介  ▼専門学校紹介ムービー ▼大専各支援サイトのコンテンツ紹介
6.KPI、 KPIの達成状況	KPI フォロー総数：200　リーチ総数：3,000 KPIの達成状況 フォロー総数：240　リーチ総数：31,577 SNS運用状況（2023年1月31日まで） ※インドネシア・ベトナムは2021年11月1日より、ネパールは2022年7月1日より運用開始

6. KPI、KPIの達成状況

Facebook	インドネシア	ベトナム	ネパール
	累計	累計	累計
1. ページビュー	15,686	5,458	34,118
2. ページへのいいね	216	557	431
3. ページのフォロー	25	111	109
4. 投稿回数	192	186	91
5. リーチ（ユーザー数）	5,804	5,792	17,675
6. エンゲージメント（ユーザーの興味・関心の強さの指標）	1,015	836	3,619
7. リアクション数（「いいね」などをした人数）	94	382	1,933

Instagram	インドネシア
	累計
1. アカウントリーチ	1,806
2. フォロワー	10
3. 写真・動画ポスト	187
4. リーチ数（ユーザー数）	2,306
5. リアクション数（「いいね」などをした人数）	147

■概要：
・対象国を反応の乏しかったオーストラリアからネパールに見直し。
・記事提供を促進するため、会員校情報更新と合わせて原稿依頼するフローに変更。
掲載75校中24校から原稿を回収し、順次投稿。
・投稿内容は「自校で学んでいる留学生」「日本で活躍している外国人卒業生」「専門学校で学べる技術や活動実績」など。
・会員校への記事提供の呼びかけは定期的に実施していく。
・制作した動画は引き続き投稿し視聴を促す。

7.構成員

57ページに掲載

8.成果、実施による効果

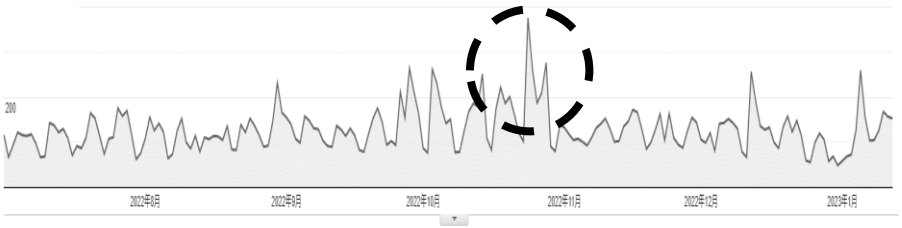
・新規追加のネパール現地の日本語に興味のある人（学んでいる人）の中でシェアが広がり、PV数が大きく増加。
・絶対数はまだ多くないものの、ベトナム、ネパールFacebookからの流入が一定数みられ、SNS閲覧者が留学生支援サイトに流入する割合は大きい。
・委託期間後半の運用であるため、支援サイトの休眠時期の活性化の材料となる。

9 新たに顕在化した課題

・現地SNSの認知度向上と運用分析からの見直し
国と地域、媒体により反応に大きな差が出ている。また原稿提供校は増加したものの全体の3割程度と改善の余地がある。リーチ数は伸びてきているもののフォロワー増につながっていないアカウントもあり、ユーザーの反応を分析しつつ改善していく必要がある。

10.事業終了後の目指すべき指標

・日本留学希望者の母集団拡大のためのSNS
渡日前留学生への大阪および専門学校の認知拡大と興味喚起において、SNSによる情報発信は効果的であり、 フォロワー数とリーチ数を指針に、今後も継続的に取り組む。
ネパールでのFacebook運用をはじめ反応が出はじめているものもあり、継続的に効果を測りながら選択と集中も検討する。
また会員校からの原稿提供についての周知や運用方法を見直し、配信内容の充実を図る。

1.取組名	【4】進学情報カードおよび留学生支援サイトへの誘引ツールの制作・配布 ①留学生採用検討企業向け誘引ツール ②日本語教育機関向け誘引ツール ③留学生受入れ校一覧　専門学校情報カード
2.目的・概要	留学生支援サイトをより多くのユーザーに閲覧してもらうため、国内向けにも誘引施策が必要。サイトへの誘引を促す広報ツールおよび専門学校の留学生受け入れ状況を一覧化した情報誌を作成し、日本語教育機関、企業、行政、駐日外国公館等の関係機関へ配布する。
3.広報手法	印刷物作成・配布、web掲載
4.広報対象	日本語学校、会員校、全国専各連、行政、協力関係団体　等
5.実施内容	**①留学生採用検討企業向け誘引ツール（2022年10月7日発送完了）** ・5,000部発行 ・送付先：全国の日本語教育機関 753件、企業 1,716件、大専各会員校 164件、他の都道府県専各 48件、行政・大使館 30件、関係団体 約30件 **②日本語教育機関向け誘引ツール（2022年10月7日発送完了）** ・5,000部発行 ・送付先：全国の日本語教育機関 753件、企業 1,716件、大専各会員校 164件、他の都道府県専各 48件、行政・大使館 30件、関係団体 約30件 **③留学生受入れ校一覧　専門学校情報カード（2022年10月7日発送完了）** ・1,500部発行 ・送付先：全国の日本語教育機関 753件、大専各会員校 164件、他の都道府県専各 48件、行政・大使館 30件、関係団体 約50件 ▼①企業向け誘引ツール ▼②日本語教育機関向け誘引ツール ▼③専門学校情報カード https://study-osaka.com/r2seika/
6. KPI、 KPIの達成状況	KPI 配布時期のアクセス数増加量と対象コンテンツのPV数を成果指標 KPIの達成状況 誘引ツールおよび情報カード発行後のWEBサイトの反応。 
7.構成員	57ページに掲載
8.成果、実施による効果	・資料発送後にサイト閲覧数の増加が確認できており、一定の反応は得られた。 ・継続的に支援サイトの周知を図ることで、ステークホルダーの認知度とサイト価値が向上する。

9.新たに顕在化した課題	**・「留学生支援サイトに誘導する」というツール目的からの発展** アクセス数の増加など発送時期に反応が得られている一方で、日本語教育機関における専門学校教育についての理解にはまだまだ課題感がある。また大専各からの情報発信が現場担当者にまで届いていないことがあり、周知対象へのアプローチの方法にも検討の余地がある。
10.事業終了後の目指すべき指標	**・日本語教育機関向け情報の見直しと、告知対象とリーチ方法の拡大** 専門学校の強みである職業教育と就職について、ターゲットとしている日本語教育機関や企業からの理解を促進できるよう、誘引ツールをはじめとした掲載内容の精査を検討する。また、留学生支援サイトをより広く周知するために、誘引ツールの発送のみならず配布協力先の拡大や各種セミナー等の折に積極的に発信していく。

〈B〉教育支援

誘致広報をより効果的にすること、留学生に対する支援の質向上、そしてオンライン学習に係るコンテンツ提供に取り組む。

<table>
<tr><td>1.取組名</td><td>【5】市場動向調査
専修学校、日本語教育機関、企業、留学生、海外現地教育機関へのアンケート調査、および分析報告書の作成</td></tr>
<tr><td>2.目的・概要</td><td>留学生を取り巻くステークホルダーの実態を把握し、必要な取り組みを進めるために実施する。また、環境改善の一助となるよう、調査対象者に広くフィードバックする。調査内容は行政・外部団体の協力を得て精査し、対象拡大、他団体との合同調査も模索することで、より有益な成果を目指す。

・ステークホルダーの現況および、それぞれが抱える課題やニーズ等を把握し、大専各という団体として多面的な解決策を獲得する。
・令和2年度事業の調査内容を踏襲し、経年変化や傾向を把握する。
・結果を報告書にまとめWEBサイト（https://study-osaka.com/）で広く公開する。
・専門学校教職員セミナーや企業向け留学生採用セミナーなどの各種セミナーにて講演等を行い、理解を深める。
・大阪府政策企画部、大阪府教育庁私学課、大阪府商工労働部、大阪商工会議所、大阪観光局、JETROからのご意見を反映。</td></tr>
<tr><td>3.広報手法</td><td>・オンラインアンケートフォームによる回答収集。
・結果を報告書にまとめWEBサイトで広く公開。</td></tr>
<tr><td>4.広報対象</td><td>国内外</td></tr>
<tr><td>5.実施内容</td><td>市場動向調査（留学生に関する実態把握アンケート調査）
・従来の４つの調査対象以外に、海外の教育機関および在籍学生の調査を追加（オンライン授業実施校にもアンケート協力依頼）
・調査内容の改善（行政・外部団体の協力を得て精査）
・調査内容の活用（調査対象者にも役立つフィードバックを検討）
・新たにハローワークの外国人雇用サービスセンターに協力を依頼するなど、対象の拡大・見直し
・他団体との合同調査
■調査実施時期：
①企業：2022年10月11日～10月20日
②専門学校・日本語学校：2022年10月14日～10月27日
③留学生：2022年10月14日～11月4日
④海外学生：2022年12月7日～2023年1月13日
■回答数■
<table>
<tr><th>対象</th><th>条件</th><th>回答数</th><th>KPI</th><th>昨年度</th></tr>
<tr><td>企業向け</td><td>大阪商工会議所や、専門学校生の採用実績がある企業を中心に広く周知</td><td>606</td><td>500</td><td>224</td></tr>
<tr><td>日本語教育機関向け</td><td>全国の日本語教育機関対象</td><td>104</td><td>150</td><td>115</td></tr>
<tr><td>留学生向け</td><td>大専各会員校在籍留学生中心</td><td>736</td><td>1,000</td><td>678</td></tr>
<tr><td>専修学校向け</td><td>大専各会員校対象</td><td>102</td><td>120</td><td>79</td></tr>
<tr><td>海外学生向け</td><td>現地機関約 10 校対象</td><td>774</td><td>300</td><td>－</td></tr>
</table>
内容：
・ステークホルダーの現況および、それぞれが抱える課題やニーズ等を把握するためのアンケート調査を実施。
・対象ごとに以下の項目を把握分析し、報告書をまとめる。</td></tr>
</table>

5.実施内容

１．専修学校
留学生の受入れ状況・課題、受入れ断念理由と今後の展望、受入れ再開のための課題、来日前留学生のケア、入学辞退者の状況、海外からの直接入学の状況、留学生募集のための海外現地広報、留学生受入れの課題、今後の留学生募集計画、コロナ禍以降の留学生支援・進路指導・就職活動についての課題・留学生採用状況、企業への要望、行政等への要望、留学生イベントに期待すること、大専各に対する意見や要望
２．留学生
日本留学の目的、日本以外の留学検討国、留学先地域選択の理由、学校選択の理由、日本留学のための情報収集、渡日前学習、コロナ禍でのオンライン授業、コロナ禍の留学生活、留学生の望む渡日前サポート、留学生が今求めるサポート、留学生の満足度が高いサポート、留学生が今後求めるサポート、将来の希望、留学生活の断念、留学生の就職活動、今後の日本留学志望者へ
３．日本語教育機関
留学生の入国状況、入学辞退状況、在籍延長状況、卒業予定状況、現在の課題、入学待機者への学習ケア、留学生の心配・悩み、留学生の進路、進学先への要望、進学先エリアの選定、政府や自治体への要望、専門学校と日本語学校に関わるイベントへの期待、大専各への意見や要望
４．企業
外国人留学生採用状況、外国人留学生の求人および応募状況、今後の外国人留学生採用方針、専修学校卒業生の採用計画、専修学校で学ぶ留学生像、留学生採用への期待、留学生採用による成果、留学生に期待すること、留学生採用における情報収集方法、留学生採用で求める情報、留学生採用の課題、留学生採用の課題、留学生採用への意見
５．海外学生
日本語学習の動機、日本語学習の最終目的、日本語能力を測る試験について、日本語勉強方法、留学先候補、留学における条件、日本への関心、進路　など

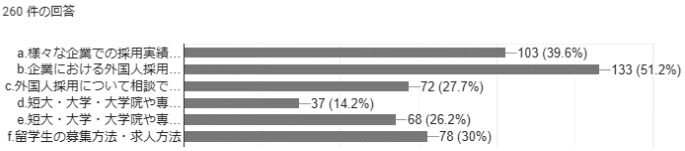
令和4年度
留学生に関する実態把握アンケート
調査報告書
https://study-osaka.com/r2seika/

■アンケート結果抜粋
１）企業対象

６．専門学校を卒業する留学生の採用を、採用計画に含んでいますか？
267 件の回答

昨年度は「計画に含んでいる」が24.3%、「計画に含んでいない」が30.8%、「検討中」が44.9%だった。回答数や業種割合は異なるが、全体的に専門学校留学生の採用意欲が向上している印象。

１４．留学生採用に関して、今後どのような情報が欲しいですか？（複数回答可）
260 件の回答

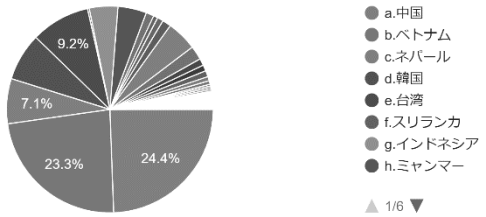


回答者のうち7割が現時点では留学生を採用していない企業であることから、事例に関する情報に関心が高い。また、「留学生の募集方法・求人方法」についての情報もニーズが高い。

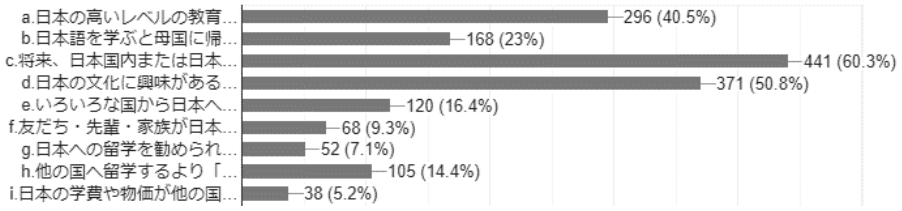
5.実施内容

2）留学生対象

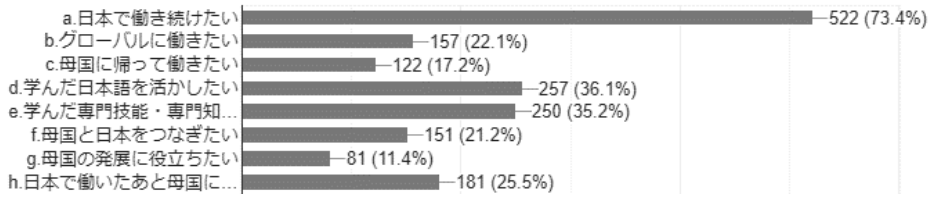
A.出身国・または地域
737 件の回答



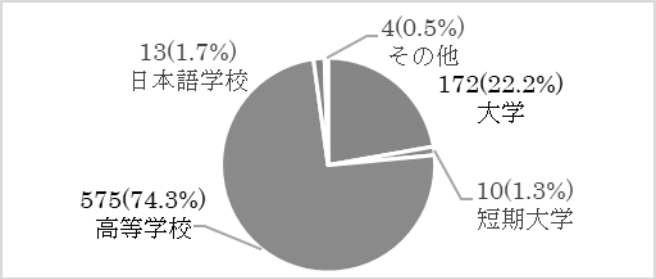
1．なぜ、あなたは「日本」に留学しましたか（最大３つまで選んでください）
731 件の回答



15．将来の希望は何ですか？（最大５つまで選んでください）
711 件の回答



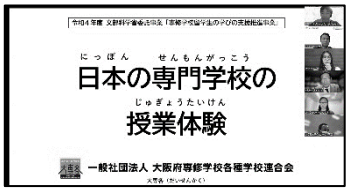
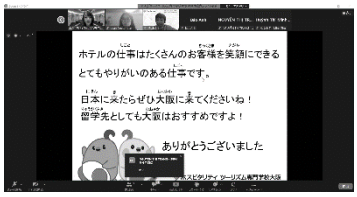
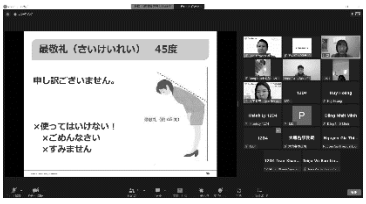
3）海外学生対象（ベトナム現地学生）



授業などで日本語教育を受けている学生が対象。

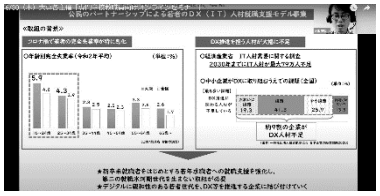
日本語学習の最終目的を教えてください（最大３つまで）		
日本の大学・短期大学に留学するため	154	19.9%
日本の大学院に留学するため	122	15.8%
日本の専門学校に留学するため	112	14.5%
自国の大学・短期大学に進学するため	160	20.7%
日本の大学・短期大学に留学し、日本で就職するため	142	18.3%
日本の大学・短期大学に留学し、自国で就職するため	115	14.9%
日本の大学院に留学し、日本で就職するため	75	9.7%
日本の大学院に留学し、自国で就職するため	71	9.2%
日本の専門学校に留学し、日本で就職するため	52	6.7%
日本の専門学校に留学し、自国で就職するため	23	3.0%
現在の学校を卒業後、自国での就職に役立てるため	192	24.8%
現在の学校を卒業後、日本での就職に役立てるため	98	12.7%
国際理解・異文化交流のため	161	20.8%
日本の文化を楽しむため	192	24.8%
その他	158	20.4%
	774	

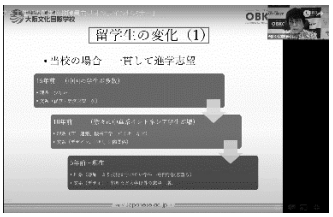
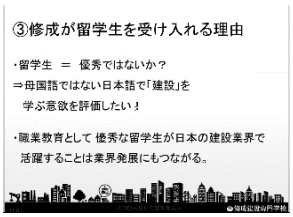
6.KPI、 KPIの達成状況	KPI　アンケート回答数 専修学校120校、留学生1,000人、日本語教育機関150校、企業500社、海外教育機関在籍学生300人 KPIの達成状況 専修学校102校、留学生736人、日本語教育機関104校、企業606社、海外教育機関在籍学生774人
7.構成員	57ページに掲載
8. 成果、実施による効果	・ステークホルダーの現況および、それぞれが抱える課題やニーズ等を把握。 ・コロナ関連の設問を一部見直し、現在の課題や関心についての回答が得られた。 ・調査対象を海外現地に広げたことで、日本に関心をもつ学生の抱える課題やニーズを把握することができた。
9.新たに顕在化した課題	複数のアンケートで回答数が目標に届かなかった。 コロナ禍において多くの団体により同種のアンケート調査が実施されていることも影響したと考えられる。アンケート集計結果を共有するだけではない、回答する意義やメリット提示が今後の課題。
10.事業終了後の目指すべき指標	・激動する留学生動向の把握に有効な取り組みであり、次年度も継続して調査を行う。 ・調査内容の活用　アンケート結果に基づいた取り組みとその発信があれば回答者にもメリットが感じられるのではないか。 ・現在、関連団体にも協力してもらいアンケート調査を実施しているが、更なる対象の拡大・見直しを検討する。 ・合同調査を試みることで、回答いただく対象者の負担軽減にもなるため、類似の調査を実施しいている団体や、調査をしたいと考えている団体等との協業を模索する。

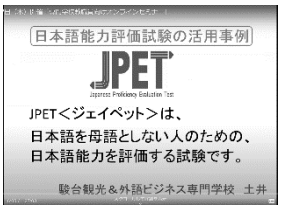
1.取組名	**【6】海外教育機関へのオンライン出前授業**
2.目的・概要	海外現地教育機関にオンライン授業を提供。過年度実績を踏まえ、対象校・授業実施校を拡大して展開する。出口（就職）を明示した職業教育理解促進・入学準備教育として、日本留学および、日本での就職促進に繋げる。また、独自に取り組む国内日本語教育機関向け出前授業にも、これらのノウハウを活用していく。
3.広報手法	オンラインによる授業配信
4.広報対象	ベトナム現地の教育機関で日本語を学んでいる学生
5.実施日時	2022年12月5日～12月14日（うち8日間）
6.実施内容	■授業提供学校数 専門学校9校、延べ19授業 ■授業受講者数 大学4、高校2，日本語センター8＝計14、受講者数＝計263名 ■概要 ・Zoom利用　日本語による授業＋ベトナム通訳スタッフによる進行サポート(適宜通訳) ・授業始めに大阪や専門学校についての動画「大阪の専門学校で学ぼう！（ベトナム語版）」を放映、終わりに大専各支援サイトや卒業生動画の紹介。 ・受講人数は1授業あたり最小3名～最大40名での実施   
6. KPI、 KPIの達成状況	KPI　授業受講者数：300名 KPIの達成状況　授業受講者数：263名
8.構成員	57ページに掲載
9.成果、実施による効果	・日本に関心をもたせることができ、専門学校と、職業教育の理解を促した。 ・オンラインでつながることにより、海外現地教育機関の学生の反応をみることができた。 ・現地高校での授業評価が高く、周辺校への拡大などが期待できる。
10.新たに顕在化した課題	**・語学力と協力校ネットワークの拡大** 前年の現地大学日本語学科の授業内での出前授業から拡大し、現地日本語教育機関、大学日本語学科、現地高校での出前授業を実施したが、授業によっては受講生の反応が希薄であったことや、多くの受講生が顔出し、声出ししないなど、双方向性について課題があった。また授業内容についての現地校とのコンセンサスも十分でないケースもあり、事前の情報共有や準備に課題が残った。
11.事業終了後の目指すべき指標	**・より発展的な実施** 海外教育機関へのオンライン出前授業はコロナ禍で渡日前教育の重要性が増している中、発展的に進めていくべき取組である。今後、取組を拡大していくために、現地協力校を拡大するとともに、授業参加人数を安定して確保できるような実施方法の見直しが検討できる。例えば出前授業を任意の期間複数回設定し、個人参加の現地学生が在籍校を問わず同時に参加できるスキームを構築することで、受講者メリットの最大化と専門学校負担軽減が期待できる。専門学校と現地校双方の理解と満足度を向上させる取り組みを通じて、専門学校教育の周知と大阪への留学生誘致につながる関心拡大につながると考えられる。

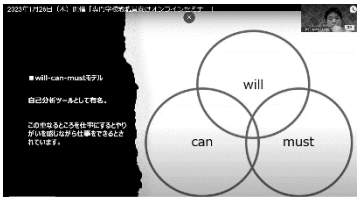
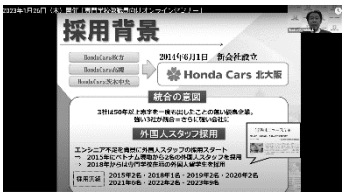
1.取組名	**【7】関西 日本語学校・専門学校情報共有会**
2.目的・概要	母国にいながら専門学校の入学条件となるJLPT N2相当の日本語能力まで育成することは実情難しいため、日本語教育を担う日本語学校と連携した活動が重要であり、日本語教育の先にある専門教育、そして就職までを一貫して明確にすることで、留学生誘致が促進すると考える。より良い「留学生支援」が実行できる体制整備を目指し、日本語学校と専門学校、支援団体との連携を強固にすべく定期的な情報共有会を開催する。
3.広報手法	会合
4.広報対象	国内向け
5.実施内容	■開催日・概要 ①第1回：2022年6月14日（参加14名、委託事業外） ■開催場所：修成学園　修成堀江ラボ ■テーマ： ・大専各、京専各、兵専各における直近の取り組み等の情報共有 ・大阪入管からの情報提供 ・意見交換 ②第2回：2022年9月9日（参加13名） ■開催場所：修成学園　修成堀江ラボ ■テーマ： ・大専各、京専各における直近の取り組み等の情報共有 ・大阪観光局、大阪入管からの情報提供 ・意見交換 ③第3回：2023年1月27日（参加19名） ■開催場所：大阪私学会館 ■テーマ： ・これまでの情報共有会についてふりかえり ・大専各より海外現地での日本語学習者に関するアンケート報告 ・大阪入管からの情報提供 ・意見交換 ■参加団体：（※回により異なる） 和歌山グローバルビジネスカレッジ／大原和服専門学園／愛甲学院専門学校／神戸住吉国際日本語学校／コミュニカ学院／メリック日本語学校／京都ホテル観光ブライダル専門学校／大阪国際アカデミー／大阪みなみ日本語学校／関西外語専門学校／修成建設専門学校／上田安子服飾専門学校／大阪文化国際学校／大阪総合デザイン専門学校 ＜オブザーバー＞ 大阪出入国在留管理局／大阪府教育庁私学課総務・専各振興グループ／文部科学省総合教育政策局生涯学習推進課専修学校教育振興室第二係／分野横断連絡調整会議事務局
6.KPI、 KPIの達成状況	KPI　3回 KPIの達成状況　3回（採択時期の兼合いで6月開催のみ委託事業外として実施）
7.構成員	57ページに掲載
8.成果、実施による効果	・関西の日本語学校と専門学校、関連団体が一体となり活動していく必要性と、課題や現況をより把握できた。 ・参加校・団体が増えたことで情報共有会としての意義が向上した。

9.新たに顕在化した課題	2022年3月の水際対策緩和により、海外からの留学生受入れが本格的に再開された。それ以降、留学生の受入れ状況は、コロナ前を上回る数値を示しており、その多くが日本語学校で学んでいる。日本語教育機関は、それまでの学生数が危機的状況だったところからみると、この反転はポジティブな要素であるものの、急激な変化は別の問題も出てきている点を、この情報共有会で知ることができた。 ・来日した留学生、日本語の修得スピードについてコロナ前よりもバラツキが目立つ ・2024卒の進路指導について、大学含め入試状況の変化が出てくるため、手探り感がある。 などである。 以上から、あらためて上級校である専門学校進学後も、日本語力を伸ばす工夫が必要であり、入試状況などは早い段階からしっかり情報提供していく必要性を感じた。
10.事業終了後の目指すべき指標	現状でも多くの専門学校に在籍している留学生のほとんどが、日本国内の日本語学校経由で入学している。日本語学校では、日本語力を向上されるだけでなく、日本での生活や文化など細かな指導を行ってくれているからこそ、我々専門学校としても、比較的スムーズな留学生受入れができているのではないかと考える。ある意味、日本留学の窓口ともいえる日本語学校との連携は、留学生の質・量ともに重要な役割だといえる。 海外ではあまり類をみない専門学校という教育機関について、理解・認知を広めるうえでも、まず日本語学校に専門学校の特長をしっかり理解してもらえるよう情報交換を図っていきたい。

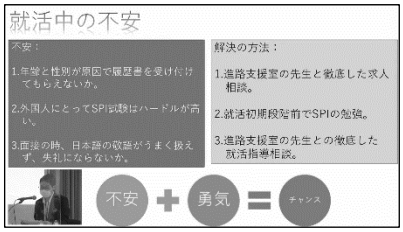
1.取組名	**【8】専門学校教職員向けオンラインセミナー①** 第1回「今こそ考える留学生支援 ーコロナ禍における専門学校のチャレンジー ～DX 人材としての留学生の可能性～ 」
2.目的・概要	留学生支援における課題や解決策等を専門学校間で共有し、専門学校教育の質的向上・発展を目的とする。令和3年度は、のべ約400名、うち70％が近畿エリア外から申込があったことから、全国の専門学校に波及する意義ある機会となっている。行政・協力団体等と連携し実施する。
3.開催日時	2022年6月30日（木）15：00～16：30
4.開催方法	Zoom によるオンラインセミナー
5.主　催	一般社団法人 大阪府専修学校各種学校連合会（大専各）留学生委員会
6.協　力	大阪府、公益財団法人 大阪産業局
7.対象者	専門学校・各種学校、日本語教育機関の教職員
8.プログラム ・登壇者	【１部】「DX 推進」に向けた取り組み ・大阪府商工労働部 就業促進課 ・公益財団法人 大阪産業局 ・清風情報工科学院 ・ECC コンピュータ専門学校 【2部】トークセッション ～DX 人材としての留学生の可能性～ ファシリテーター：ECC 国際外語専門学校 白石 一幸 司会：大阪YWCA専門学校　中山　羊奈 
9.申込者数	135名94団体 （専門学校110名74団体/日本語学校6名5団体/企業・団体・行政19名15団体）
10.KPI、 KPIの達成状況	KPI　参加者数　130人 KPIの達成状況　111人（事前予約135人）
11.構成員	57ページに掲載
12.成果、実施による効果	・情報系の専門学校と行政、公益法人にてDXをテーマに意見交換することで、留学生の就職について、新たな可能性を確認することができた。 ・半数以上が大阪府外の広域からの参加であり、全国の専門学校に情報共有する機会となっている。 ・参加者の満足度が高く、次回に期待する声も多い。（次回も参加したい95.7％）
13.新たに顕在化した課題	・情報系だけでなく他分野の専門学校においても、学生の教育や進路にDXをどのように落とし込むか、今後の社会情勢を見ながら議論を深めていく必要がある。 ・参加者の留学生支援の課題は就職支援（73.9％）、日本語能力の向上（65.2％）、次点で学生募集方法（43.5％）が多い。 ・セミナー中において参加者からの質問も多く、回答しきれないケースもある。参加者とより活発な意見交換や交流が図れる手法を検討する。＜36-43ページアンケート参照＞
14.事業終了後の目指すべき指標	日本全国の専門学校や、他の専門学校協会、自治体などにも参加いただいており、専門学校全体の留学生支援に底上げにつながる意義ある取り組みと捉えている。今後もこれまでと同水準の参加者数を指標として、テーマ設定のみならず、参加者との意見交換が図れる方法の模索といった、より効果的なセミナーを目指す。

1.取組名	**【8】専門学校教職員向けオンラインセミナー②** 第2回「今こそ考える留学生支援 ーコロナ禍における専門学校のチャレンジー ～ポストコロナを見越した募集関係～」
2.目的・概要	留学生支援における課題や解決策等を専門学校間で共有し、専門学校教育の質的向上・発展を目的とする。令和3年度は、のべ約400名、うち70％が近畿エリア外から申込があったことから、全国の専門学校に波及する意義ある機会となっている。行政・協力団体等と連携し実施する。
3.開催日時	2022年8月25日（木）15：00～16：30
4.開催方法	Zoom によるオンラインセミナー
5.主　催	一般社団法人 大阪府専修学校各種学校連合会（大専各）留学生委員会
6.対象者	専門学校・各種学校、日本語教育機関の教職員
7.プログラム・登壇者	【１部】学校紹介・募集に関する取り組み事例発表 ・大阪文化国際学校 副校長 井上 みゆき ・大阪総合デザイン専門学校 学生サービス促進本部 本部長 山田 裕之 ・修成建設専門学校 広報部 五十嵐 世騰 【2部】トークセッション ～ポストコロナを見越した募集関係～ ファシリテーター：ECC 国際外語専門学校 白石 一幸 司会：大阪YWCA専門学校　中山　羊奈  
8.申込者数	申込者数165名 ・参加機関種別 専門学校／149　大学／2　日本語学校／10　行政・団体・企業／4 ・都道府県別 大阪府／49 新潟県／16　福岡県／13　東京都／10　岡山県／8／千葉県／7　宮城県／6　岐阜県／5 広島県／4／愛知県／4　沖縄県／5　静岡県／3　徳島県／3　福島県／3　石川県／2　愛媛県／2 香川県／2　神奈川県／2／京都府／2　群馬県／2　三重県／2　栃木県／2　奈良県／2　大分県／1 熊本県／1　埼玉県／1　佐賀県／1／長野県／1　北海道／1　宮崎県／1　和歌山県／1
9.KPI、 KPIの達成状況	KPI　参加者数　130人 KPIの達成状況　142人（事前予約165人）
10.構成員	57ページに掲載
11.成果、実施による効果	・専門学校が留学生を獲得する意義と日本語学校側のニーズを再確認することができた。 ・入学後の教育・指導を視野に入れた入学試験と判定基準の必要性を確認できた。 ・留学生に対する理解を組織全体で共有することの重要性を再確認できた。 ・半数以上が大阪府外の広域からの参加であり、全国の専門学校に情報共有する機会となっている。 ・参加者の満足度が高く、次回に期待する声も多い。（次回も参加したい96.3％）
12.新たに顕在化した課題	・専門学校と日本語学校間で入学前からの情報提供と相互理解を促進することで、早期からの意識付けと進路のミスマッチ防止につながることを再認識できた。 ・国内のみならず留学前の現地教育機関、斡旋機関との連携の必要性を確認できた。 ・継続的に実施していくうえで、テーマの設定と、講演者や協力団体の調整が課題。 ・参加者の留学生支援の課題は学生募集方法（58.0％）、日本語能力の向上（44.4％）、次点で就職支援（43.2％）が多く、前回と課題比重が大きく変わっている。 ・セミナー中において参加者からの質問も多く、回答しきれないケースもある。参加者とより活発な意見交換や交流が図れる手法を検討する。＜44ページアンケート参照＞
13.事業終了後の目指すべき指標	日本全国の専門学校や、他の専門学校協会、自治体などにも参加いただいており、専門学校全体の留学生支援に底上げにつながる意義ある取り組みと捉えている。今後もこれまでと同水準の参加者数を指標として、テーマ設定のみならず、参加者との意見交換が図れる方法の模索といった、より効果的なセミナーを目指す。

1.取組名	**【8】専門学校教職員向けオンラインセミナー③** 第3回「今こそ考える留学生支援 ーコロナ禍における専門学校のチャレンジー ～専門教育、就職のための日本語サポート教育～」
2.目的・概要	留学生支援における課題や解決策等を専門学校間で共有し、専門学校教育の質的向上・発展を目的とする。令和3年度は、のべ約400名、うち70％が近畿エリア外から申込があったことから、全国の専門学校に波及する意義ある機会となっている。行政・協力団体等と連携し実施する。
3.開催日時	2022年10月27日（木）15：00～16：30
4.開催方法	Zoom によるオンラインセミナー
5.主　催	一般社団法人 大阪府専修学校各種学校連合会（大専各）留学生委員会
6.対象者	専門学校・各種学校、日本語教育機関の教職員
7.プログラム・登壇者	【１部】学校紹介・募集に関する取り組み事例発表 ・駿台観光＆外語ビジネス専門学校 教務課留学生担当 土井 省吾 ・大阪ＹＷＣＡ専門学校 専任講師 氏原 庸子 【2部】トークセッション ～専門教育、就職のための日本語サポート教育～ ファシリテーター：ECC 国際外語専門学校 白石 一幸 司会：大阪YWCA専門学校　中山　羊奈 
８.申込者数	申込者数113名 ・参加機関種別 専門学校／93　日本語学校／8　行政・団体・企業／12 ・都道府県別 愛知県6／岡山県7／沖縄県4／岐阜県3／宮崎県3／宮城県6／熊本県3／広島県5／香川県3／埼玉県1／新潟県8／神奈川県1／静岡県3／石川県2／千葉県3／大阪府39／大分県2／長崎県1／東京都4／栃木県1／福岡県3／福島県1／兵庫県3／北海道1
9.KPI、KPIの達成状況	KPI　参加者数　130人 KPIの達成状況　93人（事前予約113人）
10.構成員	57ページに掲載
11.成果、実施による効果	・専門教育や就職に向けて必要な日本語能力を入学から卒業まで継続して測定し、結果に基づき教育する重要性が再認識できた。 ・日本語コミュニケーション能力の向上について、論理的に話すための授業や外部との交流プログラムの有効性が確認できた。 ・半数以上が大阪府外の広域からの参加であり、全国の専門学校に情報共有する機会となっている。 ・参加者の満足度が高く、次回に期待する声も多い。（次回も参加したい97.6％）
12.新たに顕在化した課題	・専門科目に直結した日本語教育の可能性が今後のテーマとして検討できる。 ・専門学校が行う日本語教育が企業の求めるものと合致しているのか検証が必要。 ・継続的に実施していくうえで、テーマの設定と、講演者や協力団体の調整が課題。 ・参加者の留学生支援の課題は日本語能力の向上（68.3％）、就職支援（51.2％）、次点で学生募集方法（46.3％）が多く、前回と課題比重が変わっている。 ・セミナー中において参加者からの質問も多く、回答しきれないケースもある。参加者とより活発な意見交換や交流が図れる手法を検討する。＜44-45ページアンケート参照＞
13.事業終了後の目指すべき指標	日本全国の専門学校や、他の専門学校協会、自治体などにも参加いただいており、専門学校全体の留学生支援に底上げにつながる意義ある取り組みと捉えている。今後もこれまでと同水準の参加者数を指標として、テーマ設定のみならず、参加者との意見交換が図れる方法の模索といった、より効果的なセミナーを目指す。

1.取組名	**【8】専門学校教職員向けオンラインセミナー④** 第4回「今こそ考える留学生支援 ーコロナ禍における専門学校のチャレンジー ～留学生の採用拡大に向けて～」
2.目的・概要	留学生支援における課題や解決策等を専門学校間で共有し、専門学校教育の質的向上・発展を目的とする。令和3年度は、のべ約400名、うち70％が近畿エリア外から申込があったことから、全国の専門学校に波及する意義ある機会となっている。行政・協力団体等と連携し実施する。
3.開催日時	2023年1月26日（木）15：00～16：30
4.開催方法	Zoom によるオンラインセミナー
5.主　催	一般社団法人 大阪府専修学校各種学校連合会（大専各）留学生委員会
6.対象者	専門学校・各種学校、日本語教育機関の教職員
7.プログラム ・登壇者	【１部】学校紹介・取り組み事例紹介 ・（一社） Transcend-Learning 理事・事務局長 吉田 圭輔 ・（株）ホンダ北大阪 企画・総務課長 山本 智也 ・日本理工情報専門学校 校長 瓶井 通 【2部】トークセッション ～留学生の採用拡大に向けて～ ファシリテーター：ECC 国際外語専門学校 白石 一幸 司会：大阪YWCA専門学校　中山　羊奈  
８.申込者数	申込者数173名 ・参加機関種別 専門学校・日本語学校150／企業・団体21／高校1 ／不明1 ・都道府県別 大阪府/57 愛知県/13 岡山県/9 東京都/9 熊本県/7 群馬県/7 兵庫県/6 広島県/6 新潟県/5 北海道/5 香川県/4 福岡県/4 島根県/4富山県/3 沖縄県/3 宮城県/2 京都府/2 高知県/2 佐賀県/2 埼玉県/2 千葉県/ 徳島県/2 栃木県/2 茨城県/1 静岡県/1 岐阜県/1 三重県/1 山形県/1 山口県/1 鹿児島県/1 神奈川県/1 青森県/1 石川県/1 大分県/1 長野県/1 長崎県/1 不明/1
9.KPI、 KPIの達成状況	KPI　参加者数　130人 KPIの達成状況　146人（事前予約173人）
10.構成員	57ページに掲載
11.成果、実施による効果	・経済的優位性がなくなりつつある日本において、給与など「お金ではない」動機付けの必要性を確認した。 ・企業の、留学生が長く働けるような姿勢と具体的取組みを知ることができた。 ・入社後のミスマッチを防ぎ長く働けるようにするための、企業連携による実習やインターンシップの重要性を再認識した。 ・半数以上が大阪府外の広域からの参加であり、全国の専門学校に情報共有する機会となっている。 ・参加者の満足度が高く、次回に期待する声も多い。（次回も参加したい92.5％）
12.新たに顕在化した課題	・専門学校生の留学生としての職業観(使命意識)の育成今後のテーマとして検討できる。 ・ジョブ型への採用形態の変化の中での企業、学校の対応が新たな関心事として浮かび上がった。 ・継続的に実施していくうえで、テーマの設定と、講演者や協力団体の調整が課題。 ・参加者の留学生支援の課題は・参加者の留学生支援の課題は日本語能力の向上（55.2％）、次いで同率で学生募集方法、就職支援、学習支援（47.8％）となっている。 ＜45ページアンケート参照＞
13.事業終了後の目指すべき指標	日本全国の専門学校や、他の専門学校協会、自治体などにも参加いただいており、専門学校全体の留学生支援に底上げにつながる意義ある取り組みと捉えている。今後もこれまでと同水準の参加者数を指標として、テーマ設定のみならず、参加者との意見交換が図れる。

〈C〉就職支援（就職支援等）

1.取組名	**【9】外国人留学生採用セミナー・交流会** テーマ：「外国人留学生採用フォーラム」 ～ これからの多様化する社会に新たな価値を見出す人財とは ～
2.目的・概要	留学生、企業が安心できる環境を整備すべく、「就職支援」として企業に対し留学生の人材として採用する意義を啓発し留学生採用意欲を向上する活動を展開する。今年度は「これからの多様化する社会に新たな価値を見出す人財」をテーマのひとつとして計画する。
3.開催日時	2022年10月28日（金）15：00～17：35
4.開催方法	会場＋Zoom によるオンラインセミナーのハイブリッド開催
5.主　催	一般社団法人 大阪府専修学校各種学校連合会（大専各）留学生委員会
6.協力等	【共催】 大阪商工会議所 大阪外国人材採用支援センター（公益財団法人大阪産業局） 【協力】 留学生支援コンソーシアム大阪 関西経済連合会 アジアビジネス創出プラットフォーム人材育成活用部会 大阪出入国在留管理局 一般社団法人 Transcend-Learning 一般社団法人 外国人留学生高等教育協会
7.広報対象	①企業の経営者・人事担当 ②専門学校、各種学校、日本語学校の教職員 ③専門学校に在籍する外国人留学生
8.プログラム・登壇者	【１部】トークセッション 「多様性が求められる社会における外国人留学生の可能性」 ・（公財） 大阪産業局 HR 戦略部 部長 齋藤 考宏 ・（一社） Transcend-Learning 理事・事務局長 吉田 圭輔 ・（一社）大阪府専修学校各種学校連合会 留学生委員会委員長 山下 裕貴 【2部】留学生プレゼンテーション テーマ「私の就職活動」 ・エール学園 CESY VERLISTA （インドネシア） ・大阪 YMCA 国際専門学校 NGUYEN THI ANH THU （ベトナム） ・大阪工業技術専門学校 楊 恬 （中国） ・修成建設専門学校 MAHARJAN ROHIT （ネパール） ・日本理工情報専門学校 李 任洙 （韓国） ・森ノ宮医療学園ウェルランゲージスクール NAW THIN SWE SWE AUNG （ミャンマー） 進行：エール学園 萩原 大作 【3部】情報交換会（名刺交換会） 司会：近畿社会福祉専門学校 岡田智幸 

12.申込数等	■会場　申込者数：70名（企業関係者47、学校関係者20、行政等3） ※参加者67名 ■オンライン　申込者数：231名（企業関係者68、学校関係者70、行政等7） ※視聴者数：189名　平均視聴時間：104.7分
13. KPI、KPIの達成状況	KPI　参加者数　150人 KPIの達成状況　189人（事前予約301人）
14.構成員	57ページに掲載
15.成果、実施による効果	KPIで定めた動員数は大きく超過しているなかで、特筆すべきは参加者内訳として企業関係者数が昨年よりも増加している点だと考える。今回、動員強化として共催、協力、後援いただいた行政機関、団体にも告知を行っていただいたことも大きな増加要因ではあるが、交流会での会話やアンケートからみるとその中でも留学生を採用しようか検討している企業群はあきらかに増えていると感じた。
16.新たに顕在化した課題	企業関係者が増えたことは良かったが、まだ特定の業界に偏ったところはある（今年度、特に多かったのは建設業界）。他業界についても告知方法など工夫する余地はあると考える。
17.事業終了後の目指すべき指標	ウィズコロナ、ポスコロナとして社会は、日々大きな変化を繰り広げている。そういった中で様々な業界で人材が不足する事は当然想定されるが、それ以上により多様性が求められる社会では、留学生がもつ能力、ポテンシャルは、採用企業にとってもすごく貴重な価値につながると考えられる。企業だけでなく、留学生にとっても活躍できる場の創出は、互いにwin-winとなり、こういった事がより確立されることで、日本留学の大きな特長としてつなげたい。 そのためには、専門学校で学び、日本での就職を希望する留学生たちの就職率100%を目指すことが指標だと考える。

（２）事業実施によって達成する成果及び測定指標（2023年1月31日時点）

KPI（成果測定指標）		単位	事業開始前	令和3年度	令和4年度	令和5年度
【1・4】留学生支援サイト 月間セッション数：2,700	目標値	セッション	1,500	1500	2,700	
	実績値	セッション	1,686	2,643	4,115	
	達成度	%	112.4	176.2	152.4	

（上記 KPI を採用した理由）
WEB サイトが「どれだけアクセスされたのか？」を客観的に示す数値であるため。また、過年度と比較した観測ができる。

KPI（成果測定指標）		単位	事業開始前	令和3年度	令和4年度	令和5年度
【1・4】留学生支援サイト 海外からの月間セッション数：600	目標値	セッション	200	500	600	
	実績値	セッション	107	447	1,094	
	達成度	%	53.5	89.4	182.3	

（上記 KPI を採用した理由）
海外を対象とした事業も計画しているため、WEB サイトへの海外からのアクセスを示す数値を設定。また、過年度と比較した観測ができる。

KPI（成果測定指標）		単位	事業開始前	令和3年度	令和4年度	令和5年度
【1・4】留学生支援サイト PV/セッション数：3.0	目標値	PV	3.5	4.0	3.0	
	実績値	PV	3.72	2.4	2.0	
	達成度	%	106.2	60.0	66.7	

（上記 KPI を採用した理由）
「アクセスした人が、しっかりとサイトを閲覧しているのか？」を客観的に示す数値であるため。また、過年度と比較した観測ができる。合わせて、満足度を把握する指標として平均滞在時間の推移も注視する。

KPI（成果測定指標）		単位	事業開始前	令和3年度	令和4年度	令和5年度
【1・4】留学生支援サイト 月間直帰率：60%以下	目標値	%	50	50	60	
	実績値	%	55.9	75.7	72.0	
	達成度	%	89.4	66.0	83.3	

（上記 KPI を採用した理由）
「魅力あるサイトなのか？」を客観的に示す数値であるため。また、過年度と比較した観測ができる。

KPI（成果測定指標）		単位	事業開始前	令和3年度	令和4年度	令和5年度
【2】映像コンテンツの制作・配信 合計再生回数：5,000	目標値	回	1,500	5,000	5,000	
	実績値	回	2,180	3,082	5,283	
	達成度	%	145.3	61.6	105.6	

（上記 KPI を採用した理由）
制作した映像コンテンツが「どれだけ視聴されたか？」を客観的に示す数値であるため。

KPI（成果測定指標）		単位	事業開始前	令和3年度	令和4年度	令和5年度
【3】SNS マーケティング フォロー総数：200	目標値	件	－	－	200	
	実績値	件	－	122	255	
	達成度	%	－	－	127.5	

（上記 KPI を採用した理由）
日本留学や専門学校に高い興味を示している人を示す数値であるため。

KPI（成果測定指標）		単位	事業開始前	令和3年度	令和4年度	令和5年度
【3】SNS マーケティング リーチ総数：3,000	目標値	件	－	－	3,000	
	実績値	件	－	2,827	31,577	
	達成度	%	－	－	1052.5%	

（上記 KPI を採用した理由）
投稿を閲覧したユーザー数を示す数値であるため。

KPI（成果測定指標）		単位	事業開始前	令和3年度	令和4年度	令和5年度
【5】市場動向調査 アンケート回答数　専修学校：120	目標値	校	－	120	120	
	実績値	校	109	79	102	
	達成度	%	－	65.8	85.0	

（上記 KPI を採用した理由）
対象である大専各会員校 167 校（令和 3 年 5 月時点）のうち約 70%以上の回答として、過年度の実績を基に設定。

KPI（成果測定指標）		単位	事業開始前	令和3年度	令和4年度	令和5年度
【5】市場動向調査 アンケート回答数　留学生：1,000	目標値	人	－	1,000	1,000	
	実績値	人	996	678	736	
	達成度	%	－	67.8	73.6	

（上記 KPI を採用した理由）
大専各会員校在籍留学生を中心に、過年度の実績を基に設定。

KPI（成果測定指標）		単位	事業開始前	令和3年度	令和4年度	令和5年度
【5】市場動向調査 アンケート回答数　日本語教育機関：150	目標値	校	－	60	150	
	実績値	校	49	115	104	
	達成度	%	－	191.6	69.3	

（上記 KPI を採用した理由）
全国の日本語教育機関を対象として、過年度の実績を基に設定。

KPI（成果測定指標）		単位	事業開始前	令和3年度	令和4年度	令和5年度
【5】市場動向調査 アンケート回答数　企業：500	目標値	社	－	500	500	
	実績値	社	414	224	606	
	達成度	%	－	44.8	121.2	

（上記 KPI を採用した理由）
過年度の実績を基に設定。大阪商工会議所や、専門学校生の採用実績がある企業を中心に広く周知する。

KPI（成果測定指標）		単位	事業開始前	令和3年度	令和4年度	令和5年度
【5】市場動向調査 アンケート回答数　海外教育機関在籍学生：300	目標値	人	－	－	300	
	実績値	人	－	－	774	
	達成度	%	－	－	258.0	

（上記 KPI を採用した理由）
実施初年度となるため、現地機関 10 校ほど 300 名の回答を目指す。在籍学校種を明確にし、それぞれの傾向値を客観的に把握できる数値として設定。

KPI（成果測定指標）		単位	事業開始前	令和3年度	令和4年度	令和5年度
【6】海外教育機関へのオンライン出前授業受講者数：300	目標値	人	－	50	300	
	実績値	人	－	110	263	
	達成度	%	－	220.0	87.7	

（上記 KPI を採用した理由）
職業教育の理解促進、専門学校への興味喚起を拡げるため、過年度の実績を基に設定。

KPI（成果測定指標）		単位	事業開始前	令和3年度	令和4年度	令和5年度
【7】関西　日本語学校・専門学校情報共有会　開催：3	目標値	回	－	－	3	
	実績値	回	－	1	3	
	達成度	%	－	－	100.0	

（上記 KPI を採用した理由）
日本語教育機関と専門学校が、これまで以上に密接に情報共有していく開催回数として設定。

KPI（成果測定指標）		単位	事業開始前	令和3年度	令和4年度	令和5年度
【8】専門学校教職員向けオンラインセミナー①参加者数：130	目標値	人	－	130	130	
	実績値	人	－	97	111	
	達成度	%	－	74.6	85.4	

（上記 KPI を採用した理由）
より多くの専門学校教職員に情報提供することを目的に、過年度の実績を基に設定。従来同様、エリアごとの参加人数や、学校・分野等も把握する。

KPI（成果測定指標）		単位	事業開始前	令和3年度	令和4年度	令和5年度
【8】専門学校教職員向けオンラインセミナー②参加者数：130	目標値	人	－	130	130	
	実績値	人	－	97	142	
	達成度	%	－	74.6	107.2	

（上記 KPI を採用した理由）
より多くの専門学校教職員に情報提供することを目的に、過年度の実績を基に設定。従来同様、エリアごとの参加人数や、学校・分野等も把握する。

KPI（成果測定指標）		単位	事業開始前	令和3年度	令和4年度	令和5年度
【8】専門学校教職員向けオンラインセミナー③参加者数：130	目標値	人	－	－	130	
	実績値	人	－	－	93	
	達成度	%	－	－	71.5	

（上記 KPI を採用した理由）
より多くの専門学校教職員に情報提供することを目的に、過年度の実績を基に設定。従来同様、エリアごとの参加人数や、学校・分野等も把握する。

KPI（成果測定指標）		単位	事業開始前	令和3年度	令和4年度	令和5年度
【8】専門学校教職員向けオンラインセミナー④参加者数：130	目標値	人	－	－	130	
	実績値	人	－	－	146	
	達成度	%	－	－	112.3	

（上記 KPI を採用した理由）
より多くの専門学校教職員に情報提供することを目的に、過年度の実績を基に設定。従来同様、エリアごとの参加人数や、学校・分野等も把握する。

KPI（成果測定指標）		単位	事　業 開始前	令　和 3年度	令　和 4年度	令　和 5年度
【9】外国人留学生採用セミナー・交流会 参加者数：150	目標値	人	150	100	150	
	実績値	人	85	175	256	
	達成度	%	56.6	175.0	170.7	

（上記 KPI を採用した理由）
過年度の実績を基に設定。特に、令和 3 年度は参加企業 68 名の実績を更に拡大できるよう努める。

（3）その他報告事項

【10】成果報告書

１）目的
取組の事業結果を掲載、とりまとめて成果報告書として印刷、事業周知を行う。
２）内容
Ａ４/印刷部数：２９０部
３）配布・周知
関係各位に送付し、事業成果の周知を行う。なお本報告書のpdfを大専各WEBサイト上にアップし、重ねて事業成果の周知を行う。
発送先：大専各会員校、全国専各連事務局他、大専各会合等へ２月中旬に発送・配布予定。

【11】事業成果PR動画

1）目的
今年度実施した事業について、簡潔にわかりやすくまとめた動画を製作し、実績報告書とあわせて提出する。
２）内容
以下内容を約4分の動画に編集した
①取組体制　②目的　③取り組んだ事業説明　④KPI　⑤これからの大阪
３）周知
製作した動画は、大専各 留学生支援サイト内から閲覧可能とするとともに、
その他各種留学生に関わるセミナーなどあれば、説明動画として積極的に使用する。
また、文部科学省ホームページ「専修学校＃知る専（https://shirusen.mext.go.jp/）」
及びYouTube「知る専チャンネル」においてもぜひ公開して頂きたい。

https://youtu.be/GSbiukWYT14

大阪型「専修学校留学生の学びの支援推進事業」2022（令和４年度専修学校留学生の学びの支援推進事業）

２．事業終了後に実施予定の取組及び成果の普及方策

事業の趣旨・目的でも述べているが、大専各では留学生支援として『入学を考える、学ぶ、就職まで導く』という入口から出口までの体系化に力を注いできた。こういった取組みを行っていくうえで、文部科学省委託事業はこれまで十二分に活用してきたと自負している。その活動内容を振り返ってみると、取り組んだ成果物やノウハウももちろん重要であるが、なによりも留学生支援に真摯に取り組もうという高い志をもつ仲間が集まり、増えてきたことが大きい。それがワーキングメンバーである専門学校関係者とオブザーバーで参加していただいている行政・団体・企業の皆さんである。月1回のワーキングという定例会では、しっかりとPDCAを回しており、この状況は本事業終了後も継続して行っていきたい。

また、「就職支援」でもふれている通り、ウィズコロナ・ポストコロナといわれる社会に移行する中で、留学生が持つ能力・ポテンシャルはますます求められる。事実、大阪では2019年より企業・教育機関・行政・団体など横断的に留学生支援を行うことを目的とした「留学生支援コンソーシアム大阪」が設立された。これ以外にも様々なところで留学生支援や雇用を目的とした団体や会議が開かれている。こういった他団体との活動も大専各としては、下地もあり交りやすい状況であるといえる。
そして、大阪では2025年に大阪・関西万博の開催が控えている。世界から注目される国際行事であり、まさしく留学生の活躍も大いに期待される。そういった中で大専各は「TEAM EXPO 2025 共創パートナー」として既に申請登録されており、次のステップとしては「共創チャレンジ」をうみだすことが１つの指針として必要である。今後について、大専各で行っている留学生支援の取組みを「共創チャレンジ」と結び付けることで、より対外的な発信力も加速化すると思われるので、ぜひ試みたいと考えている。

3.事業実施に伴うアウトプット

（１）実施一覧

	取組	具体的内容	海外向け or 国内向け
A誘致広報	①入学前	【１】大専各留学生支援サイトの維持拡充 ①「留学生支援サイト」年次情報更新、多言語化 ②留学生支援サイトの維持拡充 ③「留学生受入れ校一覧」の更新 ④来日前学生と留学生採用企業の利用促進を目的とした新規情報ページ公開	海外/ 国内
	①入学前	【２】映像コンテンツの制作・配信 ①専門学校卒業生／人事担当者のインタビュー動画　10種（校） ②専門学校卒業生／人事担当者のインタビュー動画のダイジェスト版　1種	海外/ 国内
	①入学前	【３】SNSマーケティング ①ベトナム対象Facebookの運用 ②インドネシア対象Facebook＋Instagramの運用 ③ネパール対象Facebookの運用	海外/ 国内
	①入学前	【４】進学情報カードおよび留学生支援サイトへの誘引ツールの制作・配布 ①留学生採用検討企業向け誘引ツール ②日本語教育機関向け誘引ツール ③留学生受入れ校一覧　専門学校情報カード	国内
B教育支援	②在学中（教育指導）、③在学中（在籍管理・生活支援サポート）	【５】市場動向調査 ・専修学校、日本語教育機関、企業、留学生、海外現地教育機関へのアンケート調査、および分析報告書	国内
	②在学中（教育指導）、③在学中（在籍管理・生活支援サポート）	【６】海外教育機関へのオンライン出前授業 2022年12月5～14日	海外
	②在学中（教育指導）、③在学中（在籍管理・生活支援サポート）	【７】関西 日本語学校・専門学校情報共有会 第1回：2022年6月14日（委託事業期間外） 第2回：2022年9月9日 第3回：2023年1月27日	国内
	②在学中（教育指導）、③在学中（在籍管理・生活支援サポート）	【８】専門学校教職員向けオンラインセミナー 今こそ考える留学生支援－コロナ禍における専門学校のチャレンジ－ 第1回：2022年6月30日　DX人材としての留学生の可能性 第2回：2022年8月25日　ポストコロナを見越した募集関係 第3回：2022年10月27日　専門教育、就職のための日本語サポート教育 第4回：2023年1月26日　留学生の採用拡大に向けて	国内
C就職支援	④就職支援等	【９】外国人留学生採用セミナー・交流会 外国人留学生採用フォーラム ～これから多様化する社会に新たな価値を見出す人財とは～ 2022年10月28日	国内
		【10】成果報告書	―
		【11】事業成果PR動画	―

専門学校教職員向けオンラインセミナー
今こそ考える留学生支援 -コロナ禍における専門学校のチャレンジ-
～DX 人材としての留学生の可能性～

主　　催：一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会（大専各）
協　　力：大阪府、公益財団法人大阪局産業局
開催日時：令和4年（2022年）6月30日（木）15:00～16:30
開催方法：ZOOMによるオンラインセミナー
参 加 費：無料
対 象 者：専門学校・各種学校、日本語教育機関の教職員
開催要項：企業は今、既存のビジネスから脱却して、新しいデジタル技術を活用することによって、新たな価値を生み出していくことが求められ、また、これに対応できる人材が不足していることも日本の課題となっている。このための教育に向けて専門学校が取り組んでいることはないか、そして留学生に期待されるものはないのか。DXをテーマに留学生の活躍について可能性を探っていきます。

プログラム：
＜「DX 推進」に向けた取り組み （5 分×4 名）＞
・大阪府商工労働部就業促進課
・公益財団法人大阪産業局
・清風情報工科学院
・ECCコンピュータ専門学校
＜トークセッション ～DX 人材としての留学生の可能性～＞
ファシリテーター：ECC国際外語専門学校 白石 一幸
■質疑応答
■大専各からのご案内

視聴者数

申込者数：135名94団体
（専門学校110名74団体/日本語学校6名5団体/企業・団体・行政19名15団体）
※次ページ参照
視聴者数：最大111名　※ホスト・パネリスト除く
平均視聴時間：77.3分

事前予約内訳２－１

※事前予約内訳に記載している分類は、予約者が予約時に入力された分類に準じています。

合計135名94団体

（専門学校110名74団体/日本語学校6名5団体/企業・団体・行政19名15団体）

（北海道1名/福島県1名/群馬県3名/埼玉県1名/千葉県3名/東京都20名/神奈川県2名/静岡県1名/愛知県7名/新潟県6名/石川県2名/岐阜県1名/大阪府42名/岡山県11名/広島県1名/徳島県1名/香川県5名/愛媛県1名/福岡県13名/佐賀県2名/熊本県1名/大分県2名/沖縄県8名）

■団体名　・（　）内は人数

【専門学校（大阪府） 37名25団体】ECCコンピュータ専門学校(4)/学校法人山口学園(1)/ ホスピタリティツーリズム専門学校大阪(1)/学校法人エール学園(2)/学校法人ロイヤル学園(1)/学校法人花園南学園大阪観光ビジネス学院(1)/学校法人大原学園梅田校(1)/関西外語専門学校(1)/関西経理専門学校(2)/修成建設専門学校(2)/駿台観光&外語ビジネス専門学校(1)/大原外語観光＆ブライダルビューティー専門学校(1)/大原学園梅田校(1)/大阪YMCA国際専門学校(2)/大阪アミューズメントメディア専門学校(4)/大阪バイオメディカル専門学校(1)/大阪ハイテクノロジー専門学校(1)/大阪情報専門学校(1)/学校法人上田学園(1)/大阪総合デザイン専門学校(2)/大阪文化国際学校(1)/大阪文化服装学院(1)/辻学園調理・製菓専門学校(1)/日本メディカル福祉専門学校(2)/瓶井学園(1)

【専門学校（大阪府以外） 73名49団体】
(北海道)北海道芸術デザイン専門学校(1)/(福島)FSGカレッジリーグ(1)/(群馬)専門学校中央情報大学校(2)/中央情報経理専門学校(1)/(埼玉)大原学園大宮校(1)/(千葉)学校法人中村学園(2)/日本自動車大学校(1)/(東京)学校法人三幸学園(2)/駿台法律経済＆ビジネス専門学校(1)/大原簿記学校(1)/日本電子専門学校(3)/(神奈川)外語ビジネス専門学校(1)/柏木実業専門学校(1)/(新潟)学校法人国際総合学園国際外語・観光・エアライン専門学校日本語科(1)/国際外語・観光・エアライン専門学校(2)/上越保健医療福祉専門学校(1)/新潟国際自動車大学校(1)/長岡公務員・情報ビジネス専門学校(1)/(石川)金沢福祉専門学校(2)/(岐阜)サンビレッジ国際医療福祉専門学校(1)/(静岡)学校法人静岡理工科大学(1)/(愛知)あいちビジネス専門学校(1)/トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校(2)/学校法人たちばな学園(1)/保育・介護・ビジネス名古屋専門学校(1) /(岡山)岡山科学技術専門学校(2)/岡山商科大学専門学校(3)/学校法人本山学園(1)/専門学校岡山情報ビジネス学院(2)/美作市スポーツ医療看護専門学校(1)/(徳島)専門学校徳島穴吹カレッジ(1)/(香川)学校法人穴吹学園(4)/(愛媛)河原学園河原電子ビジネス専門学校(1)/(福岡)学校法人麻生塾(1)/国際貢献専門大学校(1)/専門学校コンピュータ教育学院メディアコミュニケーション(1)/専門学校福岡カレッジ・オブ・ビジネス(2)/福岡ウェディング＆ホテル・IR専門学校(1)/麻生外語観光&製菓専門学校(1)/麻生情報ビジネス専門学校(6)/(佐賀)CODO外語観光専門学校(2)/(熊本)専門学校湖東カレッジ(1)/(大分)田北ビジネス専門学校(2)/(沖縄)沖縄ラフ&ピース専門学校(1)/学校法人KBC学園(1)/学校法人尚学院(2)/学校法人SOLA学園(1)/尚学院国際ビジネスアカデミー(1)/大育情報ビジネス専門学校(1)

【日本語学校】、【企業・団体・行政】は次ページに掲載→

事前予約内訳２－２

※事前予約内訳に記載している分類は、予約者が予約時に入力された分類に準じています。

■団体名　・（　）内は人数

【日本語学校 6名5団体】

（愛知)名古屋国際学院(1) /(岡山)岡山外語学院(2)/(東京)(法)赤門会日本語学校(1)/学校法人新井学園赤門会日本語学校(1)/日本東京国際学院(1)

【企業・団体・行政 19名15団体】

(大阪)大阪府(1) /大阪府企画室(1) / 大阪出入国在留管理局(1) /(一社)大阪府専修学校各種学校連合会(2)/(東京)AIG損害保険(株) (1)/ISIグローバル(株) (1)/(一社)外国人留学生高等教育協会(1)/(株)さんぽう(4)/(株)ライセンスアカデミー(1)/全国専門学校協会(1)/日経BP(1)

(愛知)(一般)愛知県専修学校各種学校連合会(1)/(広島県) (株)日本エンジニア(1)/

(香川)(一社)香川県専修学校各種学校連合会(1)/(沖縄)沖縄県専修学校各種学校協会(1)

セミナー中にあがった質問（チャット）

・人気のあったDX研修は何だったでしょうか？

・ECCコンピュータ専門学校様に質問です。国際エンジニア専攻の1期生卒業生は何名ですか？

・ECCコンピュータ専門学校様に質問です。N2全員合格について、対策授業、手法など可能な範囲で教えてほしい。

・IT系コース在籍留学生の国籍、日本語の授業について、就職した企業について教えてほしい。

・在留資格についてどのような方法で取得を考えますでしょうか？

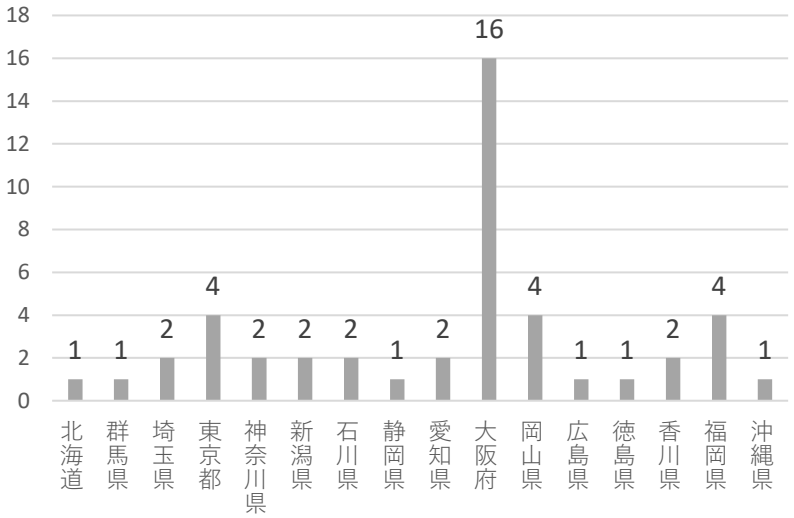
・清風情報工科学院様に質問です。IT分野での留学生の受入は現地大学卒に限定されていますでしょうか？高卒の方は入学していないか別分野に進まれる形でしょうか？

・申請時に技術者としての就職であれば問題ないと思いますが、DX推進人材の方であればどうすればよいとお考えでしょうか？

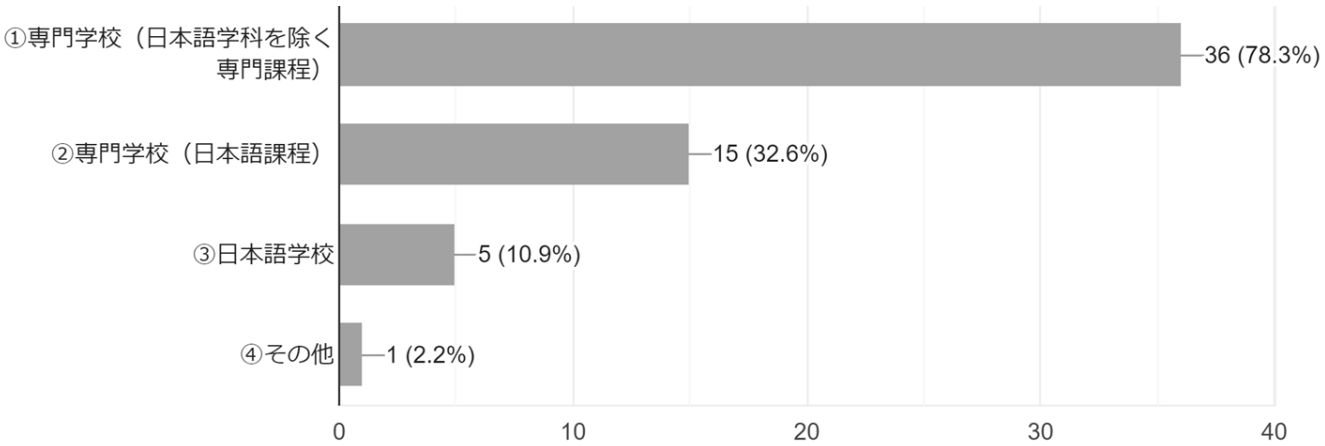
・在留資格の変更費用について学校負担でしょうか？企業負担でしょうか？

アンケート回答者数46名

1. 学校所在地を教えてください。（回答46）

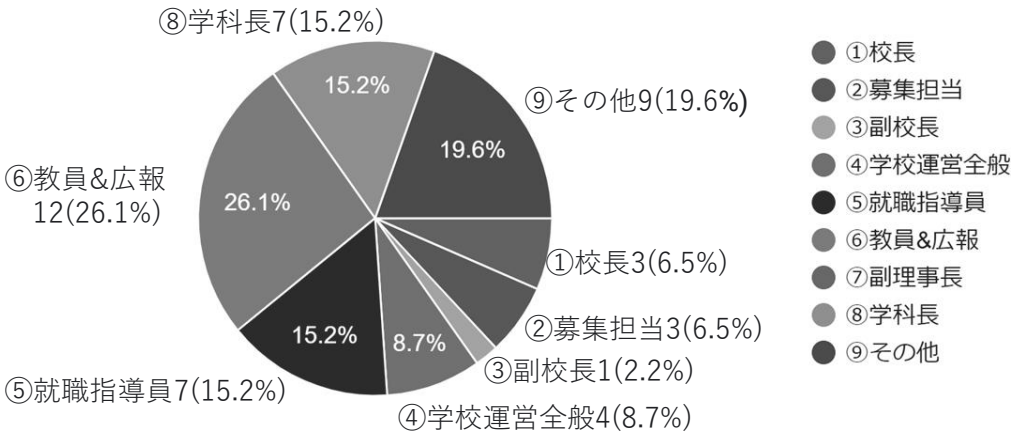


2. どの教育機関に所属されていますか。（複数回答可）（回答46）

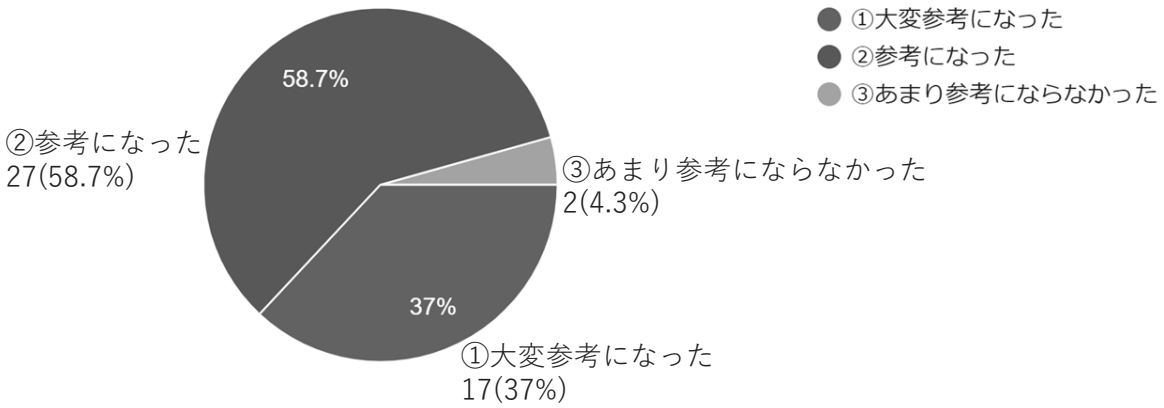


※④その他　大専各事務局

3. 学内の業務についてお答えください。（回答46）



4-1. プログラムについてご感想をお聞かせください。【❶「DX推進」に向けた取り組み紹介】（回答46）



4-2. プログラム【❶「DX推進」に向けた取り組み紹介】についてのご意見をご記入ください。4-1で①～③を選ばれた理由もご記入ください。（自由記述）（回答21）

1）専門学校（日本語学科を除く専門課程）の回答

・本学は介護の専門課程、日本語学科の2課程であるが、基本的なDX概念理解に役立った。
・情報系学科を設置しているので、大変参考になりました。
・文系の学校なので入社後のDX活用人材との協働が必須となるので就職支援の参考となった。
・避けては通れない時代の流れを感じました。
・まずデジタル化をいかに推進するかです。
・CAD導入についてのお話やN2取得について。やはり専門的な学習も大事ですが、日本語教育について力を入れることも必要であると実感しました。
・DXというのは、レベルが高すぎて、テーマとしては難しい部分があったが、IT人材をどうしていくかということでは、非常に興味深いお話の内容であった。
・専門学校生(留学生)にDXを担わせる人材になることを求めるのはかなり難しいことがわかりました。（日本人でも難しい）
・DXは抽象的で、かつ専門学校（留学生の専門課程）でどのように取り組むのかイメージしづらかったが、「取り組めることから」という捉え方での基礎からの教育活動をやっていくということで理解、運営をしていくしかないということがわかりました。
・「大阪でのDX推進に向けた取り組み」は参考になりましたが、もう少し具体的な内容が聞ければありがたいです。
・専門人材の確保の難しさから兼務人材、日本人と留学生の相互補完関係という打開策は良いと思います。
・大阪府や産業局と専門学校双方の取り組みが少しでも知ることができたこと。
・難しい状況の中で取り組まれている内容は大変参考になりました。
・現状を把握出来た点は参考になりました。
・直接の担当ではないのであまり参考にならなかった。

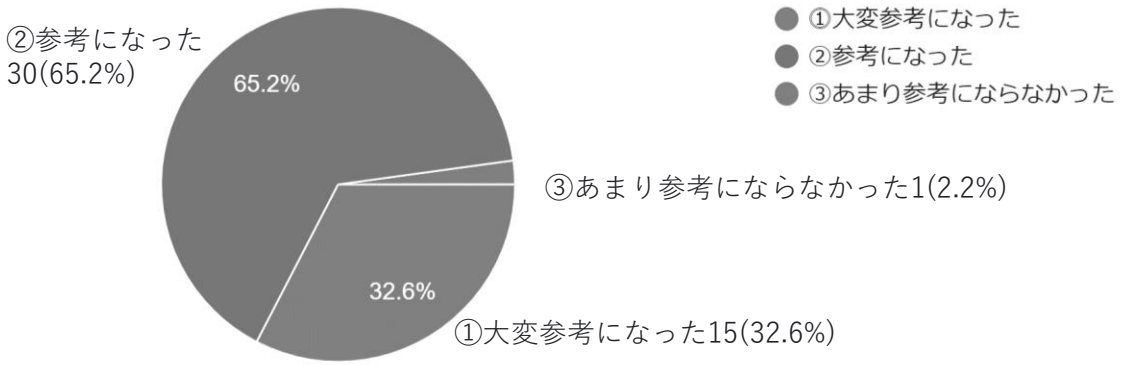
2）専門学校（日本語課程）の回答

・大阪だから可能な点もあるのではないかと感じた。
・大阪での事例を伺うことで、社会的な必要性を実感できた。
・府、産業局もいろいろと取り組まれていることを感じました。
・在学生は医療関係を目指しているため、ほとんど知らない分野でしたので大変参考になった。

3）日本語学校の回答

・現状が理解できた。
・IT、デジタルとは違う部分が、少し説明されていたため参考になった。

5-1. プログラムについてご感想をお聞かせください。【❷トークセッション～DX人材としての留学生の可能性～】（回答46）



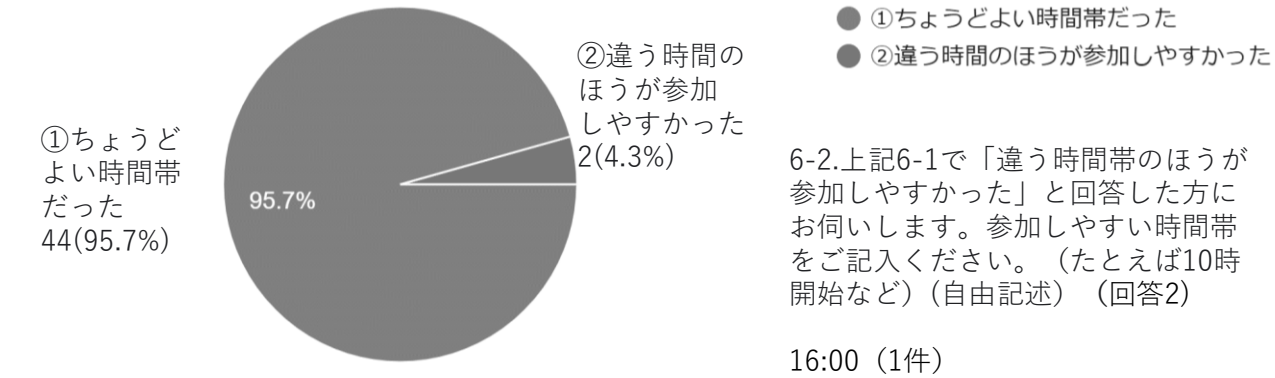
5-2. プログラム【❷トークセッション ～DX 人材としての留学生の可能性～】についてのご意見をご記入ください。5-1で①～③を選ばれた理由もご記入ください。（自由記述）（回答16）

1）専門学校（日本語学科を除く専門課程）
・専門学校においてDX人材育成事例が乏しいことがわかりました。
・就職先の話は参考になった。
・トークセッションでは在留資格などについても具体例が聞けて、大変参考になりました。
・産業界（行政）、専門学校双方のお話を聞けた点が参考になった。
・留学生の即戦力は厳しいのは理解していたが、それでも前向きに採用する企業のメリットも知ることができた。
・母国のIT関連の大学を卒業した留学生を受け入れ、日本語能力を伸ばしていくというのはもっとも現実的で留学生の日本での就職の可能性もより高くなると感じます。
・円安の流れの心配もあるが、本当に日本は留学先として彼ら彼女たちから今後選ばれていくのか心配である。
・技術者として留学生を就職させることには自信があるが、この分野での就職には実績が無いため、大変参考になった。
・まずは日本人学生をそのレベルに上げることからでしょうか。
・生の声が聞けたと思います。
・質問に答えていただき、ありがとうございました。
・具体的な話、教育内容が参考になりました。

2）専門学校（日本語課程）
・清風さんの直接海外の大学から受け入れる取り組みはすごいと感じた。
・様々なケースの実例が聴けて良かった。
・技術、知識、コミュニケーションを兼ね備えるとなると、現在入学している留学生には厳しいと感じます。

3）日本語学校
・具体的な内容でよかった。

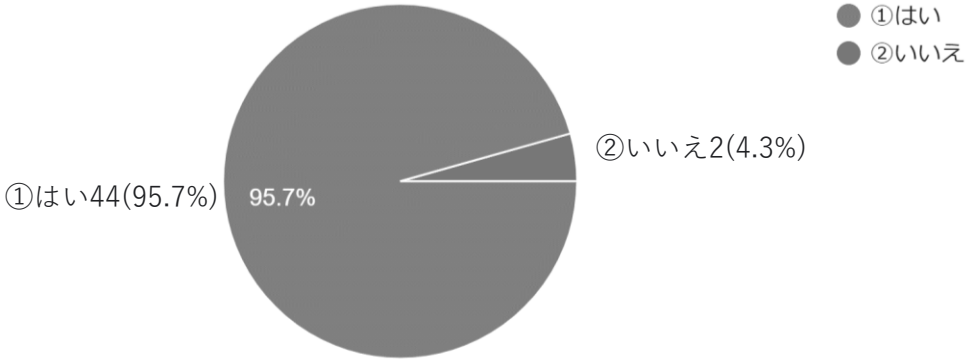
6-1. 実施時間帯についてご意見をお聞かせください。（回答46）



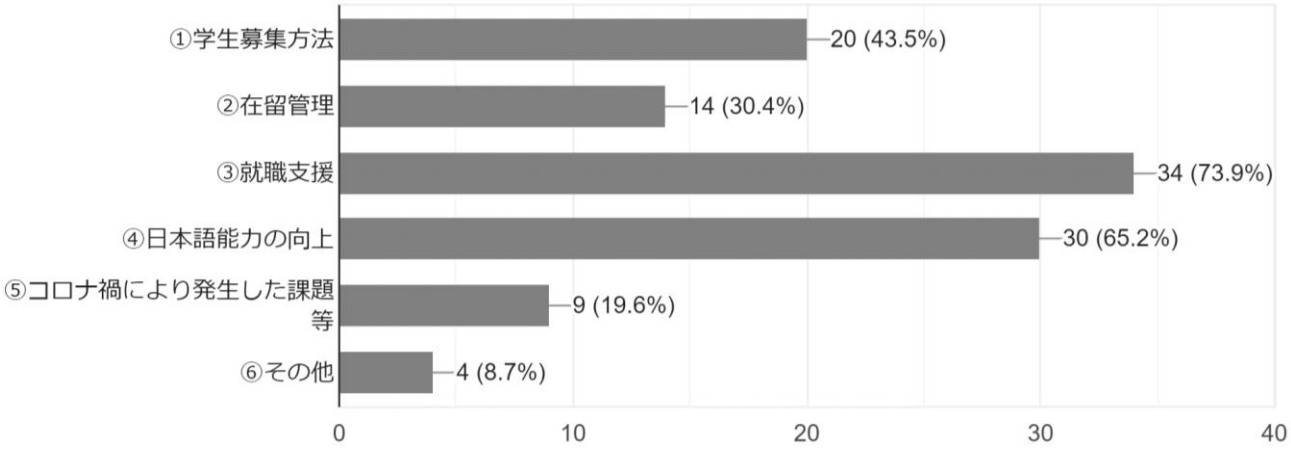
6-2.上記6-1で「違う時間帯のほうが参加しやすかった」と回答した方にお伺いします。参加しやすい時間帯をご記入ください。（たとえば10時開始など）（自由記述）（回答2）

16:00（1件）
16:00-17:30(1件)

7. 本セミナーは、今後も定期的にシリーズ開催を予定しています。次回以降も継続して参加したいと思いますか？（回答46）



8-1. 「留学生支援」において、課題やお困りの点はありますか？（複数回答可）（回答46）



8-2. 上記8-1で⑥「その他」と回答した方にお伺いいたします。具体的な課題やお困りの点をご記入ください。（自由記述）（回答3）

・人員不足。
・ベトナムの学生が大金を払って仕事の斡旋をうけ、ビザ変更ができないことがあったこと。
・他の都道府県と違い、自治体が主導する意思を持たないこと。

9. 今後、取り上げてほしいテーマをご記入ください。（自由記述）（回答15）

1）専門学校（日本語学科を除く専門課程）
・日本社会に馴染むための教育方法。
・在留更新や在留資格変更について。
・就職。
・留学生の就労支援関連。
・留学生の受け入れおよび在籍管理について
・留学生取次業務、在籍管理について
・ITに限らず就職関係について、取り組みや企業からの声を聞きたいです。
・留学生事業視点で見た今後の世界の中での日本の在り方。日本のコアバリューは何か。
・留学生に対する就職支援のあり方(具体的にどのような指導、活動で就職へ結びつけるか)。
・就職に繋がる「日本語能力向上」の指導例。
・日本（または一部地域でもOK）留学生の在籍数の増減などの現状と各校の問題や課題への取り組みについて。
・政府が回復させると言っている日本への海外人材についての具体の取り組み。
・企業の留学生に対する心象を変えるために。

2）専門学校（日本語課程）
・N3レベルの就職指導。

3）日本語学校
・「教えない指導」等への取り組み事例。

10. 本セミナーに関するご意見・ご要望をご記入ください。（自由記述）（回答14）

1）専門学校（日本語学科を除く専門課程）
・ありがとうございました。
・ありがとうございました。留学生の事例につき、様々な情報を頂戴できればと思います。
・大変参考になりました。有難うございました。
・他校の取り組みについて分かりやすく提示していただけた。
・大変参考になり、ありがとうございました。
・初めて参加させて頂きましたが、時間を忘れるくらい濃密な時間でした。大変勉強になりました。ありがとうございました。
・有意義な時間になりました。ありがとうございました。ECCさん、全員N2はすごいと思いました。
・いろいろと大変参考になりました。
・お世話いただきありがとうございました。
・とても興味深いセミナーが多く、群馬県でもこういった取り組みをやって欲しいとすら思っています。ありがとうございました。
・いろいろな情報を得ることができるので、ありがたい限りです。

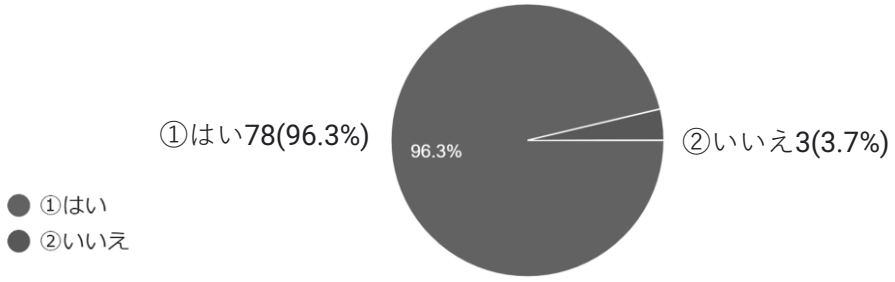
2）専門学校（日本語課程）
・毎回興味深いテーマを選んでいただきありがとうございます。
・今後もいろいろなセミナーを開催願います。

3）日本語学校
・ありがとうございました。

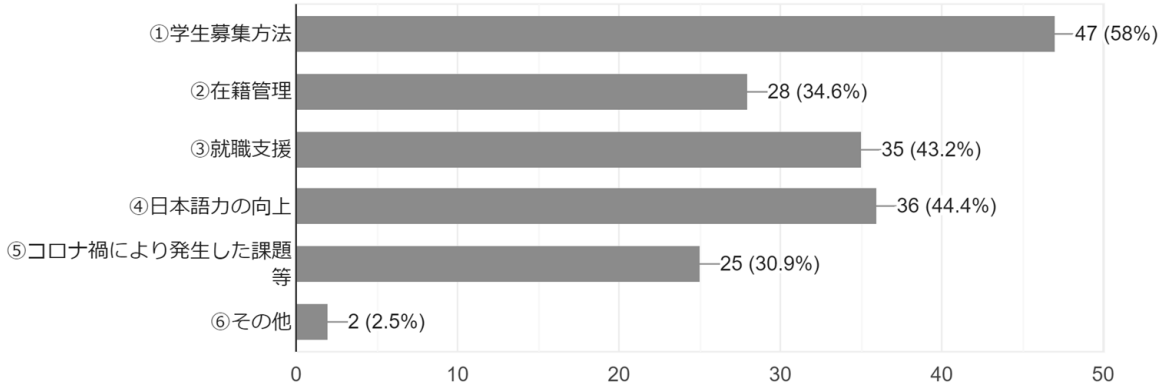
【8】専門学校教職員向けオンラインセミナー
第2回「今こそ考える留学生支援 ーコロナ禍における専門学校のチャレンジー
アンケート抜粋

第2回　～ポストコロナを見越した募集関係～
2022年8月25日（木）15：00～16：30

7. 本セミナーは、今後も定期的にシリーズ開催を予定しています。次回以降も継続して参加したいと思いますか？（回答81）

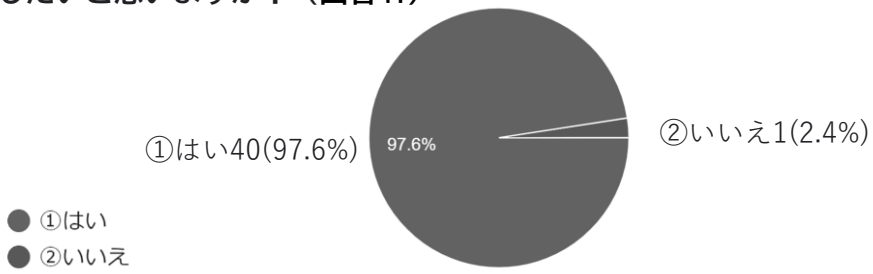


8-1.「留学生支援」において、課題やお困りの点はありますか？（複数回答可）（回答81）

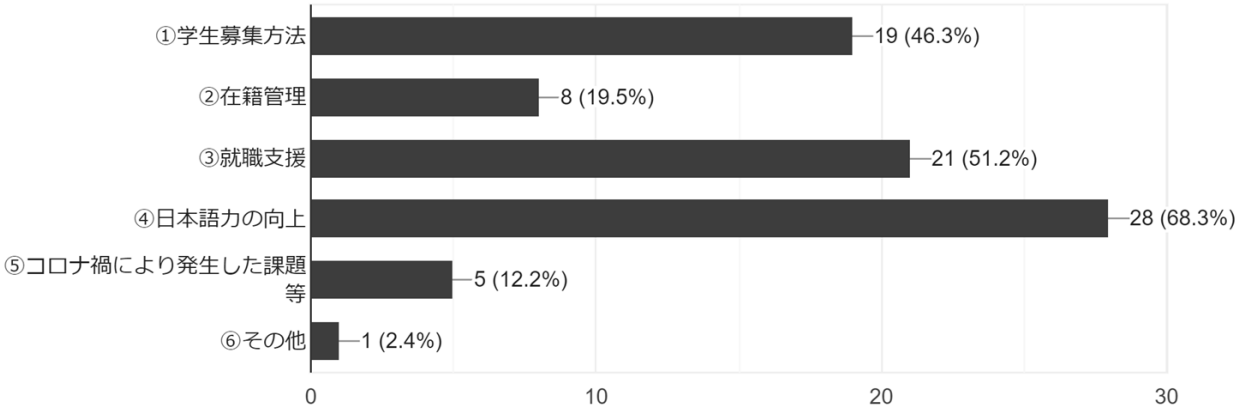


第3回　～専門教育、就職のための日本語サポート教育～
2022年10月27日（木）15：00～16：30

7. 本セミナーは、今後も定期的にシリーズ開催を予定しています。次回以降も継続して参加したいと思いますか？（回答41）

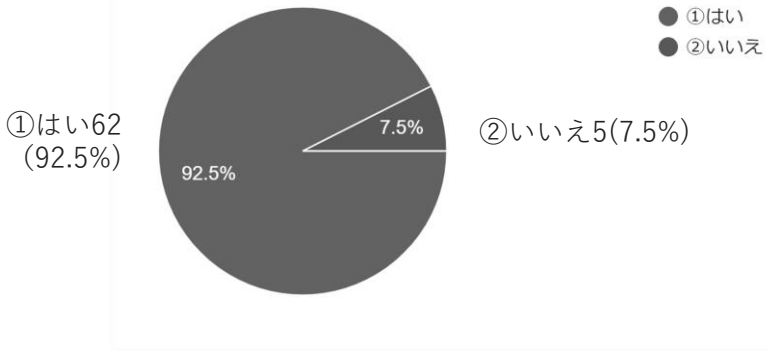


8-1.「留学生支援」において、課題やお困りの点はありますか？（複数回答可）（回答41）

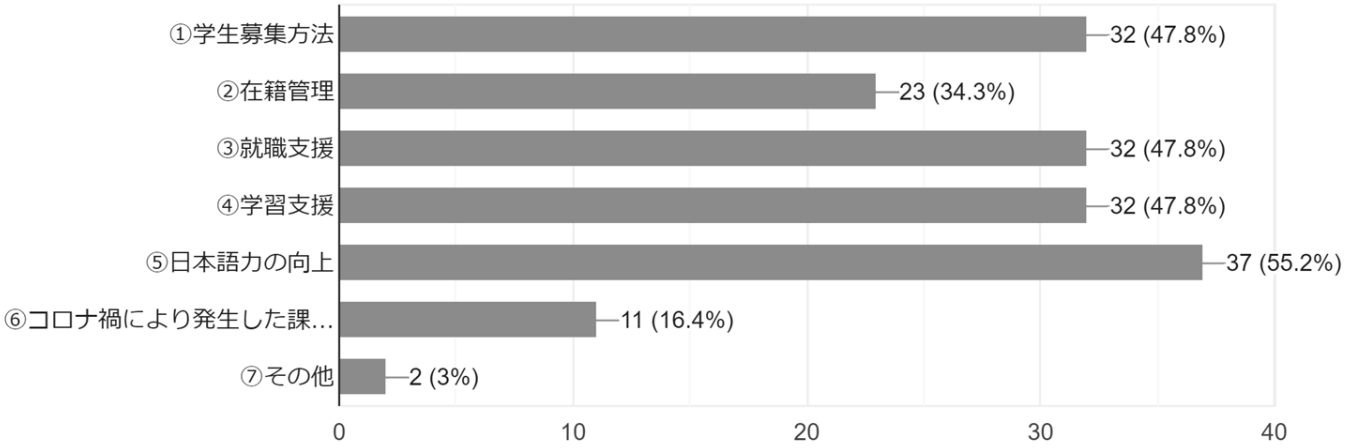


第4回　～留学生の採用拡大に向けて～
2023年1月26日（木）15：00～16：30

7. 本セミナーは、今後も定期的にシリーズ開催を予定しています。次回以降も継続して参加したいと思いますか？（回答67）



8-1.「留学生支援」において、課題やお困りの点はありますか？（複数回答可）（回答67）



令和 4 年度 文部科学省委託事業「専修学校留学生の学びの支援推進事業」

外国人留学生採用フォーラム

～ これからの多様化する社会に新たな価値を見出す人財とは ～

主　　催：一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会（大専各）

開催日時：令和4年（2022年）10月28日（金）15:00～17:35

会　　場：大阪私学会館４F （〒534-0026 大阪府大阪市都島区網島町 6-20）

開催方法：会場 + ZOOM によるオンラインセミナー のハイブリッド開催

共　　催：大阪商工会議所、大阪外国人材採用支援センター（公益財団法人大阪産業局）

協　　力：留学生支援コンソーシアム大阪、関西経済連合会、
アジアビジネス創出プラットフォーム人材育成活用部会、大阪出入国在留管理局、
一般社団法人 Transcend-Learning、一般社団法人 外国人留学生高等教育協会

後　　援：大阪府、近畿経済産業局、独立行政法人 日本貿易振興機構（ジェトロ）大阪本部

参加費 ：無料

対象者 ：①企業の経営者・人事担当 ②専門学校、各種学校、日本語学校の教職員
③専門学校に在籍する外国人留学生

開催要項：長引くコロナ禍で社会は大きく変化し、あらゆる業界・企業が今後の成長を模索している中、人材採用は重要な取組みのひとつです。本フォーラムでは外国人留学生に焦点をあて、これからの多様化する社会で新たな価値をつくりだす人財として、外国人留学生の価値を再発見していきます。留学生を採用している企業の取り組み事例や留学生の就職活動体験を通じて、企業の人材採用の一助となる機会を提供します。

プログラム：

＜挨拶＞ 文部科学省 総合教育政策局 生涯学習推進課 専修学校教育振興室 専門官 望月 香里
（一社）大阪府専修学校各種学校連合会 副理事長 冨永 桂多

＜第 1 部＞トークセッション 「多様性が求められる社会における外国人留学生の可能性」
（公財）大阪産業局 HR 戦略部 部長 齋藤 考宏
（一社）Transcend-Learning 理事兼事務局長 吉田 圭輔
（一社）大阪府専修学校各種学校連合会 留学生委員会委員長 山下 裕貴

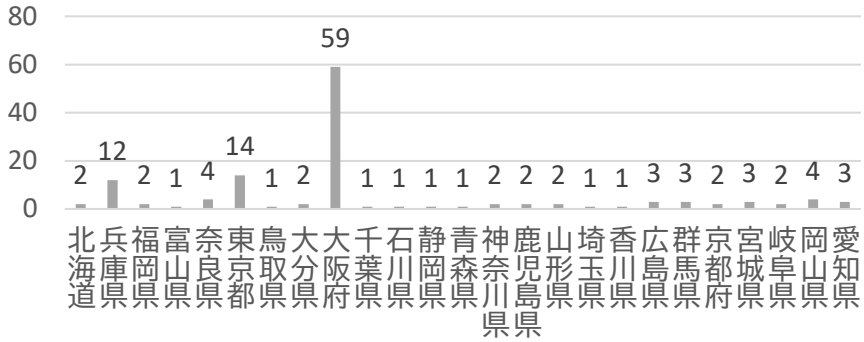
＜第 2 部＞留学生プレゼンテーション テーマ「私の就職活動」
エール学園 CESY VERLISTA（インドネシア）
大阪 YMCA 国際専門学校 NGUYEN THI ANH THU（ベトナム）
大阪工業技術専門学校 楊 恬(中国)、修成建設専門学校 MAHARJAN ROHIT（ネパール）
日本理工情報専門学校 李 任洙(韓国)
森ノ宮医療学園ウェルランゲージスクール NAW THIN SWE SWE AUNG（ミャンマー）

＜閉会の挨拶＞ 大阪商工会議所 人材開発部 研修・採用支援担当 課長 本 奈美

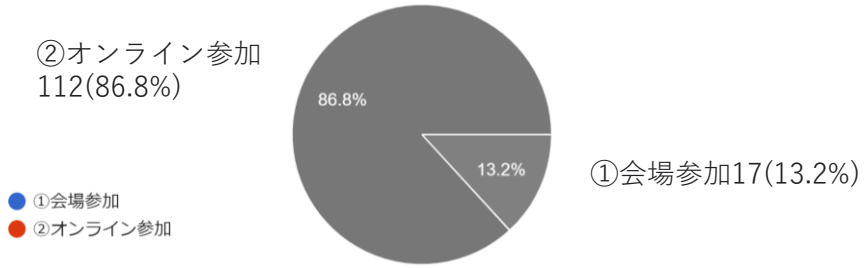
＜第 3 部＞情報交換会（名刺交換会） 会場参加者のみ

アンケート回答数129件

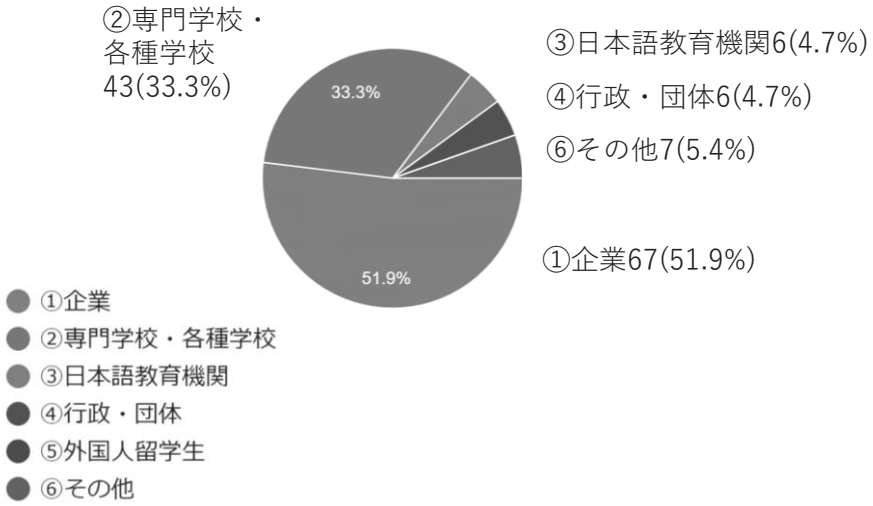
1. 所属団体・所属教育機関の所在地を教えてください。（回答129）



2. 本フォーラムの参加方法をご記入ください。（回答129）



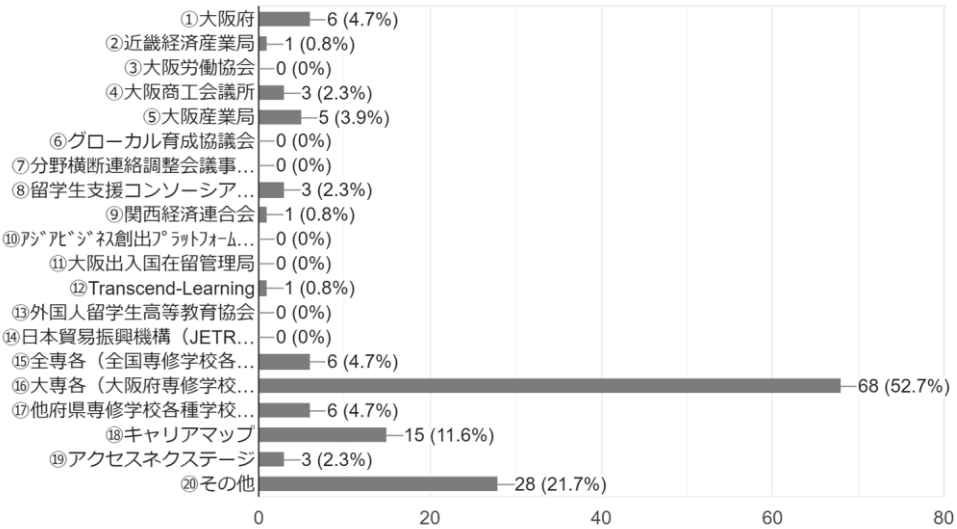
3-1. ご自身の所属についてお伺いいたします。（回答129）



3-2:3-1で「⑥その他」と回答した方にお尋ねします。ご自身の所属をご記入ください。（自由回答）（回答9)

・社長室
・経営企画室
・事務局
・就職キャリアセンター
・行政書士（個人事業主）
・行政書士（専門家相談員）
・日経BP
・株式会社グッドニュース
・フリー

4-1. 本フォーラム開催はどの団体・企業からの案内で知りましたか？（複数回答可）（回答129）



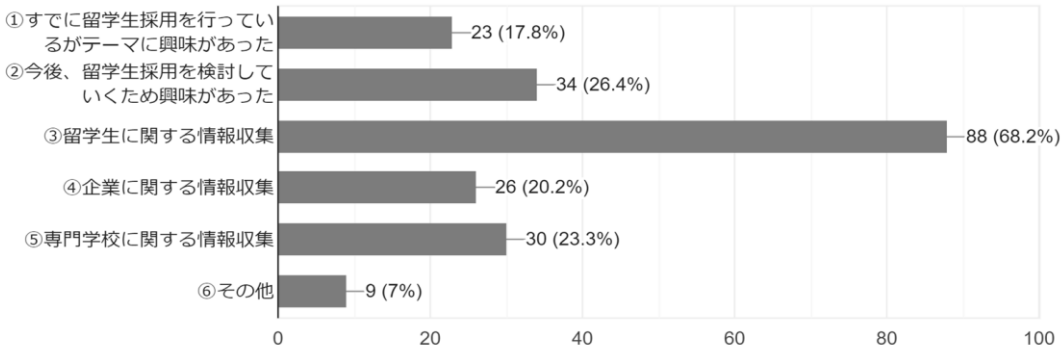
※左記表の団体・企業名が途中で表示されていないものは下記名称より参照ください。

①大阪府
②近畿経済産業局
③大阪労働協会
④大阪商工会議所
⑤大阪産業局
⑥グローカル育成協議会
⑦分野横断連絡調整会議事務局
（専修学校留学生の学びの支援推進事業）
⑧留学生支援コンソーシアム大阪
⑨関西経済連合会
⑩ｱｼﾞｱﾋﾞｼﾞﾈｽ創出ﾌﾟﾗｯﾄﾌｫｰﾑ人材育成活用部会
⑪大阪出入国在留管理局
⑫Transcend-Learning
⑬外国人留学生高等教育協会
⑭日本貿易振興機構（JETRO）大阪本部
⑮全専各（全国専修学校各種学校総連合会）
⑯大専各（大阪府専修学校各種学校連合会）
⑰他府県専修学校各種学校連合会等
⑱キャリアマップ
⑲アクセスネクステージ
⑳その他

4-2. 4-1で「⑳その他」 と回答した方にお尋ねします。本フォーラムの案内提供があった団体・企業名をご記入ください。（自由記述）（回答22）

・JRCマリンフォネット（株）関西サービスセンター
・修成建設専門学校　進路係（2）
・修成建設専門学校のメルマガ
・修成建設専門学校（13）
・ロータストラックネット（2）
・株式会社進研アド
・エール学園
・参加者からの案内

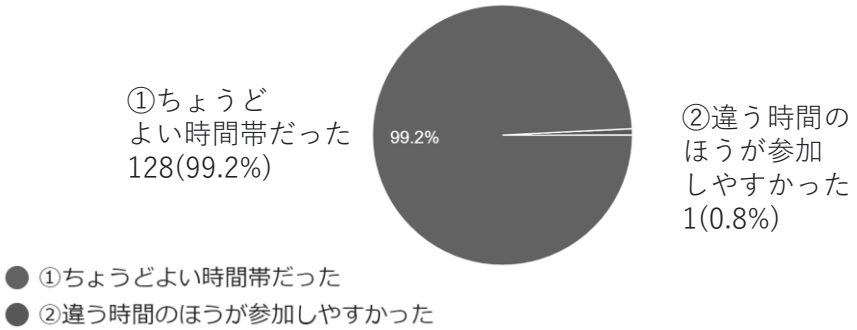
5-1. 本フォーラムの参加理由をお聞かせください。（複数回答可）（回答129）



5-2. 5-1で「⑥その他」 と回答した方にお尋ねします。参加理由をご記入ください。 （自由記述）（回答8）

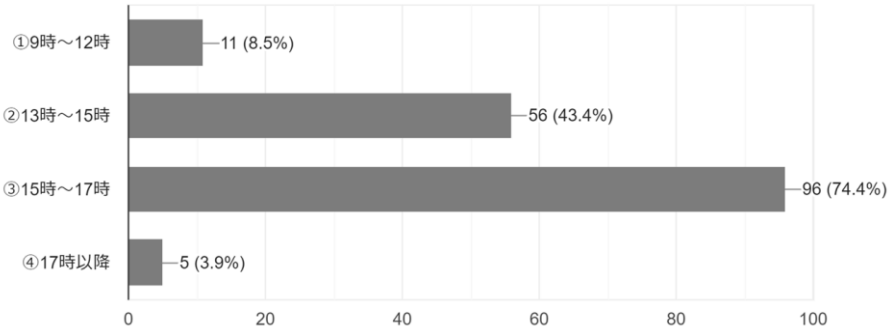
・内定を出している人材が発表者として出るため。
・チェシさんのプレゼンテーションを聴くため。
・留学生の実際のプレゼンを聞きたかった。
・今後どのような学生を日本語学校で育てて行けばよいかを知りたかったので参加させていただきました。
・日本語学校の学生を専門学校に進学させていく立場として、専門学校が就職に向けてどんな姿勢で取り組んでいるか、受け入れようとする企業、また支援する機関・団体がどのような方向性を持っているかを確認するため。
・大阪における留学生の就職に関わる取り組みへの関心から。
・専門家相談員としての情報収集。
・外国人の日本での就職といったテーマに関心があった。

6-1. 実施時間帯についてご意見をお聞かせください。（回答129）

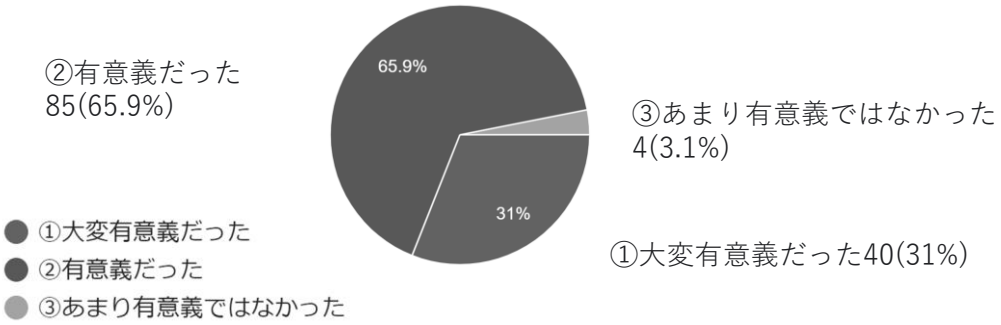


「②違う時間帯のほうが参加しやすかった」と回答した方にお伺いします。参加しやすい時間帯をご記入ください。
（自由記述）
（回答0）

7. 参加しやすい実施時間帯についてご意見をお聞かせください。（回答129）



8. 本フォーラム全体のご感想をお聞かせください。（回答129）



9. 本フォーラムで最も印象に残ったことは何ですか？（自由記述）（回答70）

１）企業（31）

・外国人留学生の実体験や企業に求める事柄の話。
・留学生の発表。
・世界で留学生の取り合いになっていること。
・留学生の経験談。
・留学生は頑張っている。
・留学生のスピーチで生の声が聞けたこと。
・留学生のプレゼンテーション。
・留学生の日本語レベルの高さ。
・面接では同じような境遇の留学生がいれば緊張が和らぐことが知れてよかった。
・多くの分野の専門学校で多数の留学生がご活躍されている事に驚きました。
・外国人留学生の熱心さ。
・第１部のトークセッションでの外国人を採用しない理由で外国人を雇入れていない会社の不安があらわれているアンケート結果。

・留学生の方々がさまざまなバックグラウンドから日本で働きたいと考えてくれているのだと改めて感じた。特にミャンマーからの留学生の方は平和、安全ということを口にされていて、安全であるだけで日本が魅力になるのだと少し衝撃に思った。
・留学生採用の実態を知ることができてよかった。
・実際に大阪府内の職場で活躍する外国人材の皆さんのメッセージが聞けたこと
・留学生にとって他の日本人と同様に働くことが良いことだと考えていたが、そうではないのだと教えていただいたこと。
・選ぶ時代の終了 ダイバーシティ WILL CAN MUST 留学生のプレゼン。
・言葉の壁を乗り越えての就職時には大変な思いをされたことが分かった。
・本日の留学生さんは、日本語が流暢でした。
・留学生が、採用(面接やSPI)に対してどう感じていたか。
・留学生の選考時の、感想や困ったことが聞けた。
・留学生のプレゼンテーション。
・修成建設専門学校のネパールの方の日本語がとても流暢だった。
・ミャンマーからの留学生のお話。
・ミャンマーから来た方が、内戦が続いており、安全を求めて留学し、日本で就職するということに決めたという話が印象に残りました。
・留学生の実際の活動・行動。
・留学生採用市場の現状や留学生のプレゼン内容について。
・留学生の就職活動に関する発表。
・留学生を日本人の形式にはめようと、し過ぎているということは確かにあるのではと感じた。
・留学生の雇用を検討していた為、第1部トークセッションが大変参考になりました。
・就労者の本人と同僚のインタビュー

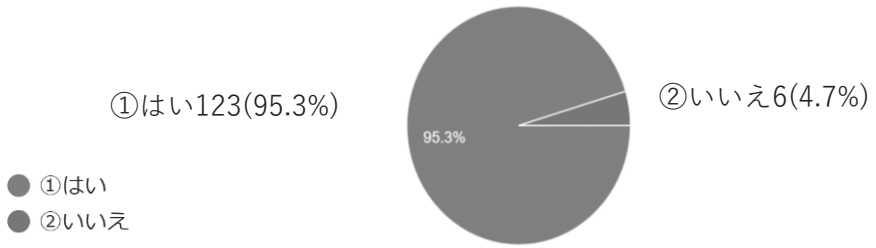
2）専門学校・各種学校（28）
・思っている以上にマーケットができていること。
・留学生の就活など生の声を聴くことができた。
・留学生プレゼンテーション
・トークセッションが、企業の考え方、留学生などの状況がよく分かり勉強になりました。
・留学生プレゼンテーション。
・留学生プレゼンテーション。
・現在の留学生の日本語レベルがしっかりしていること（３）
・学生たちの力強い生の声。
・留学生が歓迎される大阪の実現。
・留学生のプレゼンテーション。
・トークセッションがたいへん参考になりました。
・第二部留学生プレゼンテーション。
・ ６人のプレゼンテーションが立派でした。特にミャンマーのお国事情に負けない心は素晴らしいです。
・現状の説明。
・留学生の就職活動への取り組み。
・就職活動での早期の面接指導とインターシップへの参加の意義、学生たちの志がとても印象的でした。また、企業からの提案やアプローチの方法、手助けを知り、留学生の就職支援につなげていきたいと思いました。
・留学生のプレゼンテーション。
・留学生のプレゼンテーション。
・留学生を日本人化することを望む日本企業の意識変革が必要。
・就職している外国人社員の声。
・トークセッション。
・大阪産業局様の取り組み。
・留学生による就職活動についてのプレゼンテーション、内定者のmovie→内定をもらうためにどんなことをいつ頃から取り組んだか、就活の経験など。
・留学生の就活状況がわかった。
・ ＜第１部＞トークセッションの内容。
・現在の留学生の日本語レベルがしっかりしていること。（３）

3）日本語教育機関（3）
・吉田様のお話が、とても勉強になりました。
・今は選ぶ時代から選ばれる時代になっているとお聞きし、今後留学生にとって魅力的な日本留学にしなければいけないと改めて感じました。
・留学生プレゼンテーション。

4）行政・団体（3）
・留学生の様々な意見が聞けたこと。
・コンソーシアム等の産官学の連携体制が構築されていること。
・トランセンドの様々な取り組みのその成果の素晴らしさ。

5）その他（5）
・外国人の方々の日本語スキル。
・留学生の質疑応答。
・留学生のお話し。
・良い人材からは選ばれる時代となった。
・学生の声、採用側の声。

10. 本フォーラムを次年度も開催した場合、参加したいと思いますか？ （回答129）



11. 本フォーラムに関するご感想・ご意見・ご要望がございましたらご記入ください。（自由記述）（回答40）

1）企業（18）
・スライドを投影して頂きましたが、可能であれば全て全画面表示でご対応いただけますと幸いです。
・本日はありがとうございました。
・直接お会いできる機会をご提供いただきたい。
・外国人労働者に対するいろいろな情報が収集出来てよかった。
・運営ありがとうございました。
・留学生採用のおいて企業の意見交換をオンライン上でもできるようにしてほしい。
・貴重な経験でした。ありがとうございました。
・具体的な採用接点の通知。
・発表された留学生は優秀な方を選抜しているように感じたため、あまり日本語がうまく話せなくても良いので平均もしくは平均より下の方々の話も聞ければよいと思います。（勘違いであれば申し訳ございません）
・留学生の募集採用に関する情報を教えてほしい。
・メリット＆デメリットの明確化。
・留学生のプレゼンテーションは、彼らの努力が伝わってきました。感心しました。
・名刺交換会は、名刺が目印だと誰がだれかわからない。各学校の方の位置は固定しておいてほしい。
・登壇しての事例紹介も良いが、さらに多くのケースを聞いてみたい。
・オンライン上でも参加企業とのディスカッションができればいいなと思います。
・留学生の就労ビザへの切替について聞きたかった。
・発表スライドの操作は発表者ができるようにした方が良いと思います。発表中に「次のスライド」と促していくと話す方も聞く方もわかりにくくなるかと思います。また、質疑応答の質問はオンライン参加でも聞こえるようにしていただきたい。
・オンライン参加させてもらったが資料が見えにくかったり、質疑応答が聞き取りにくかった。事前にオンライン参加者へ資料を配布していただければありがたい。

2）専門学校・各種学校（12）
・お世話ありがとうございました。
・ありがとうございました。 （2）
・会場の質問が聞こえず、萩原先生のフォローありがとうございました。マイク回しがあれば良かったかと思います。
・留学生の発表を聞いて、内容はもちろんですが、彼らの態度、言葉遣い、視点などから気付きを得ました。今後の指導に役立てたいと思います。ありがとうございました。
・とてもよかったです。留学生の生のお話が聞けたことが有意義でした。
・とても参考になる話を聞くことができました。オンラインの参加では、プレゼンの資料が少し小さかったと思います。
・オンラインでの参加は移動時間を省略できて大変有難いので、コロナ禍収束後も継続していただきたい。12月に公表予定の留学生採用アンケートの最終版を楽しみにしています。
・元々会場参加で申し込みしていましたが、当日に学内で対応しなければならない事案が発生しオンライン参加しましたが、途切れ途切れの視聴となってしまいました。もし、アーカイブ配信がございましたら、ご案内いただけますでしょうか。よろしくお願いいたします。
・次年度も内容によっては参加させていただきたく存じます。
・オンライン参加だった為多少仕方ない部分はあるかと思いますが、スライドの文字が小さく見えにくかったことがありました。ズームして見やすくしていただくか作成時にそういった点を気にかけていただければと思いました。・開催時間帯はちょうど良いのですが、開催時間が少々長かったように思います。今回2.5ｈの開催で、かつ17：30までと夕方遅くまでの開催だったため次回はスタート時間を早めるか開催時間を短くしていただけたらと思います。
・本日は参加させていただきありがとうございました。是非、次回は＜第１部＞トークセッションの内容の時間を長くとって頂きたいと思いました。詳しく聞きたいためになります。
・留学生の募集形態を多く紹介してほしい（３）

3）日本語教育機関（3）
・もう少し様々な業態の企業さまと交流したい。
・今日はありがとうございました。参考になるお話しが多かったと思います。プレゼンされた学生さんに日本の魅力をもっと伺いたかったです。
・お疲れさまでした。ありがとうございました。留学生自身も参加可能なフォーラムなので、今回の留学生プレゼンテーションで複数名の方が面接についてお話されていたように、格式・形式重視ではなく、もっとカジュアルに自由度も高く、活発な意見交換ができる場にされたほうが、より良いのではないかと思います。

4）行政・団体（2）
・すでに日本で働いている外国人の方のご意見が聞けてとても有意義でした。多くの方に知ってもらい内容でした。
・大変有意義で参考となりました。

5）その他（2）
・第１部がかなり早足に感じた。
・インターンシップは資格外活動違反となる可能性があるので入管の手続は適切にお願いします。

12. 今後、取り上げてほしいテーマがございましたらご記入ください。（自由記述）（回答37）

１）企業（18）
・留学生採用に関する離職防止。
・留学生にとって真に必要な日本語教育とは？
・留学生の日本語能力向上に向けて、入社後の企業としてできること。
・在籍留学生の数。卒業予定者数等の情報。
・入社後の手続き。
・円安の影響で日本で働こうと思う人のモチベーション。
・企業が留学生の採用を進めたい場合、具体的にどう動けばよいのかについて。
・留学生の私生活の困りごとなど。
・分野別の交流会を最後に作ってほしい。
・留学生が本当に困っていること（留学してすぐ、就職してから）。
・ビザの手続きポイント。
・留学生全体の希望職種や就職先の傾向・統計。
・採用した留学生の離職防止。
・就労ビザへの切替手続き。
・留学生を雇用した際、こういう形で注意が必要など企業側の意見が知りたい。
・専門学校のおけるリカレント・リスキリングについて。
・留学生を雇用する際の注意点や条件等。
・特記なし。

2）専門学校・各種学校（13）
・OB、OGの就業体験報告があれば聞いてみたい。
・今後の日本（留学先としての）への留学生たちの期待度。
・毎回の内容を楽しみにしております。ありがとうございます。
・留学生の受けれ企業の現状と課題及労働人口減へ対策として外国人の人材活用の展望等。
・実際のインターシップの現状や会社の案内、就職指導などのテーマを取り上げていただき、学生にダイレクトに反映させていきたい。
・入管手続き、学生管理についての事例検討。
・留学生の就職活動においての専門学校の取り組み、企業側の要望など。
・ビザ申請関係(就労ビザ関係)、就職関係。
・新設校です。各専門学校の留学生に対しての取り組みについて知りたいです。また、就職において実際に経験した専門学校さんに不許可、許可になった例、取り組みなどを教えてほしいです。
・留学生の求めていることと、日本人が求めている違いについて。
・福祉系の留学生状況（老人施設の奨学金で学校へ通う条件等）（３）

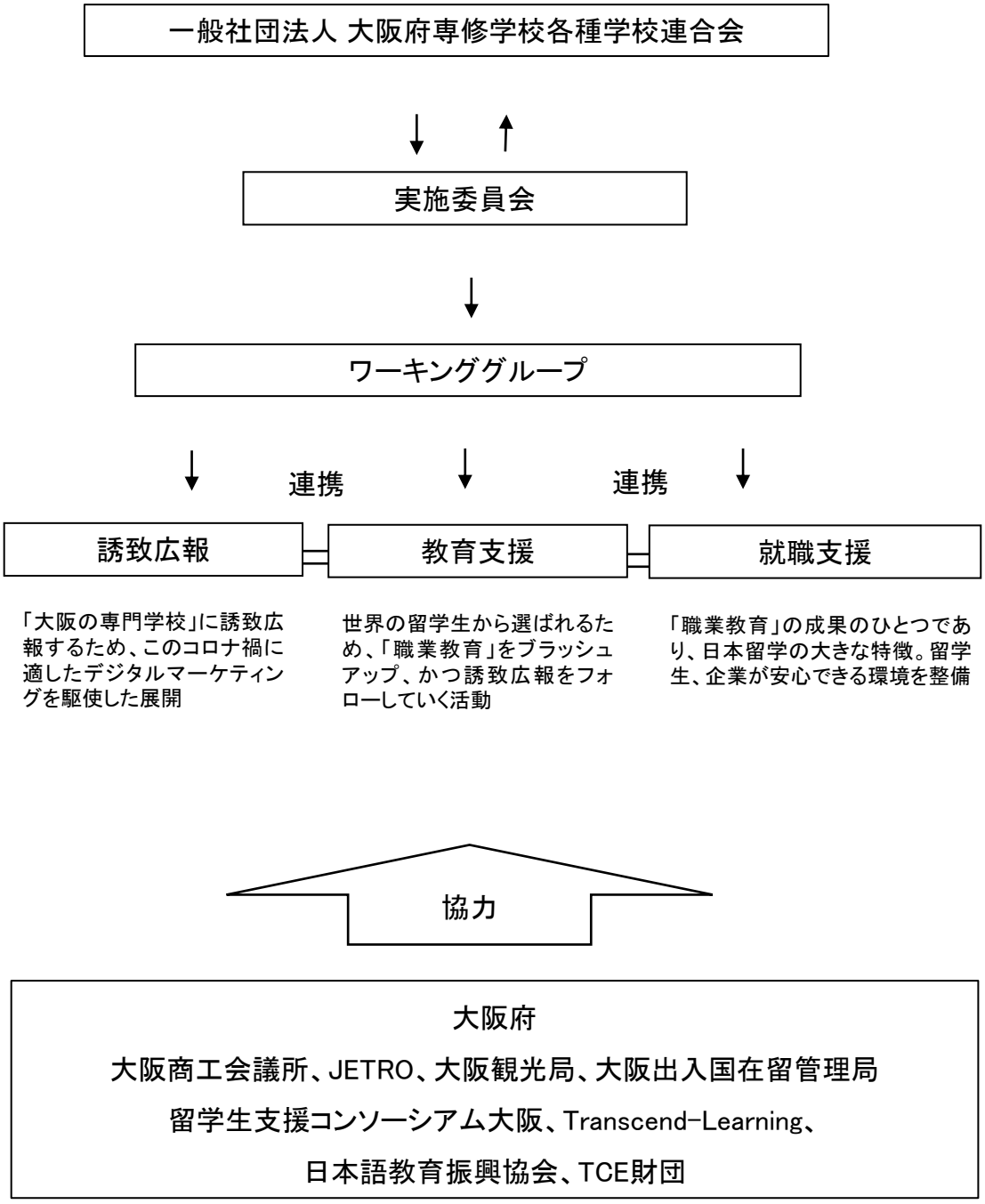
3）日本語教育機関（1）
・業界別の動向と展望、そして問題点について。

4）行政・団体（2）
・元留学生のOB・OGから見た日本の企業や労働環境に関する意見。
・他国の留学生に対する支援（補助など）。

5）その他（3）
・不登校で通信制高校入学の生徒専門学校へ入学が増えていくときの連携について。
・入管法・技能実習法の罰則規定は大変厳しいので、違反とならないよう経営者側の理解を深めるセミナーの開催。
・外国人に日本式の就職・採用を強いるのは無理があるのかなぁと感じており、それぞれの特性を生かした外国人材獲得の就職の新たなあり方はどんなものかを議論する機会があると良いなと思いました。

４．事業の実施体制

（1）実施体制



（2）構成機関等

①教育機関　（順不同）

	名称	役割等	内諾	都道府県名
1	ECC国際外語専門学校	企画・説明・実施	有	大阪府
2	上田安子服飾専門学校	企画・説明・実施	有	大阪府
3	エール学園	企画・説明・実施	有	大阪府
4	大阪工業技術専門学校	企画・説明・実施	有	大阪府
5	大阪コミュニティワーカー専門学校	企画・説明・実施	有	大阪府
6	大阪総合デザイン専門学校	企画・説明・実施	有	大阪府
7	大阪調理製菓専門学校	企画・説明・実施	有	大阪府
8	大阪調理製菓専門学校 ecole UMEDA	企画・説明・実施	有	大阪府
9	大阪バイオメディカル専門学校	企画・説明・実施	有	大阪府
10	大阪文化国際学校	企画・説明・実施	有	大阪府
11	大阪ベルェベル美容専門学校	企画・説明・実施	有	大阪府
12	大阪YWCA専門学校	企画・説明・実施	有	大阪府
13	大阪YMCA国際専門学校	企画・説明・実施	有	大阪府
14	関西外語専門学校	企画・説明・実施	有	大阪府
15	関西経理専門学校	企画・説明・実施	有	大阪府
16	近畿社会福祉専門学校	企画・説明・実施	有	大阪府
17	修成建設専門学校	企画・説明・実施	有	大阪府
18	駿台観光アンド外語ビジネス専門学校	企画・説明・実施	有	大阪府
19	清風情報工科学院	企画・説明・実施	有	大阪府
20	中央工学校OSAKA	企画・説明・実施	有	大阪府
21	日本メディカル福祉専門学校	企画・説明・実施	有	大阪府
22	日本理工情報専門学校	企画・説明・実施	有	大阪府
23	ホスピタリティ ツーリズム専門学校大阪	企画・説明・実施	有	大阪府
24	森ノ宮医療学園専門学校	企画・説明・実施	有	大阪府
25	ホーチミン市師範大学	企画・説明・実施	有	ベトナム

②企業・団体　（順不同）

	氏名	所属・職名	役割等	内諾	都道府県名
1	清水　尚道	大阪府専修学校各種学校連合会　理事長	実施委員長	有	大阪府
2	小林　幸治	大阪商工会議所人材開発部　部長	事業協力・助言	有	大阪府
3	國守　正二	大阪観光局 留学生支援推進室 留学生支援・教育旅行　学校交流コーディネーター	事業協力・助言	有	大阪府
4	村橋　靖之	日本貿易振興機構大阪本部長	事業協力・助言	有	大阪府
5	吉田　圭輔	一般社団法人Transcend-Learning 理事・事務局長	事業協力・助言	有	大阪府

③行政機関　（順不同）

	氏名	所属・職名	役割等	内諾	都道府県名
1	山本　純孝	大阪府教育庁私学課総括補佐	事業協力・助言	有	大阪府

(3) 構成員等

①実施委員会構成員 (順不同)

	氏名	所属・役職
1	清水 尚道	一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会 理事長 森ノ宮医療学園専門学校 理事長
2	小林　幸治	大阪商工会議所人材開発部　部長
3	國守 正二	大阪観光局 留学生支援推進室 留学生支援・教育旅行　学校交流コーディネーター
4	村橋　靖之	独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）大阪本部長
5	山本 純孝	大阪府教育庁 私学課 総務・専各振興グループ総括補佐
6	吉田 圭輔	一般社団法人 Transcend-Learning 理事・事務局長
7	カオ・レ・ユン・チー	国立ホーチミン市師範大学　日本語学部学部長
8	冨永 桂多	一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会 留学生委員会 担当副理事長 関西外語専門学校 理事長
9	山下 裕貴	一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会 留学生委員会 委員長 修成建設専門学校 理事長
10	上田 哲也	一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会 留学生委員会 副委員長 大阪総合デザイン専門学校 理事長
11	長谷川 恵一	エール学園 総長
12	木村 泰一	ECC国際外語専門学校 留学生センター長
13	中森 健裕	日本メディカル福祉専門学校 副学園長

②ワーキングメンバー構成員 (順不同)

1	冨永　桂多	関西外語専門学校
2	山下　裕貴	修成建設専門学校
3	上田　哲也	大阪総合デザイン専門学校
4	平岡　憲人	清風情報工科学院
5	木原　郁	
6	長谷川　恵一	エール学園
7	萩原　大作	
8	瓶井　修	日本メディカル福祉専門学校
9	瓶井　通	日本理工情報専門学校
10	白石　一幸	ECC国際外語専門学校
11	立山　英展	大阪YMCA国際専門学校
12	小島　賢久	森ノ宮医療学園専門学校
13	宗田　宜士	大阪工業技術専門学校
14	中山　羊奈	大阪YWCA専門学校
15	岡田　智幸	近畿社会福祉専門学校
16	枡　豪司	
17	岡　猛	大阪文化国際学校
18	吉岡　智也	大阪調理製菓専門学校 ecole UMEDA
19	源野　幸次	大阪バイオメディカル専門学校
20	栗本　真里	中央工学校OSAKA
21	五十嵐 世騰	修成建設専門学校
22	重田　大	大阪ベルェベル美容専門学校
23	前野 晃久	関西経理専門学校
24	山田 裕之	大阪総合デザイン専門学校
25	宋　海男	駿台観光アンド外語ビジネス専門学校
26	三分一　誠	ホスピタリティツーリズム専門学校大阪
27	藤原　和宏	

③事業実施協力機関 (順不同)

事業実施協力機関
大阪府
大阪商工会議所
日本貿易振興機構(ジェトロ)大阪本部
大阪観光局
一般社団法人Transcend-Learning
国立ホーチミン市師範大学
日本語教育振興協会
一般財団法人職業教育・キャリア教育財団
株式会社アクセスネクステージ
株式会社WAVE

④担当事業別構成員　（順不同）

〈A〉誘致広報

氏名		所属
1	宗田 宜士	大阪工業技術専門学校
2	上田 哲也	大阪総合デザイン専門学校
3	長谷川 恵一	エール学園
4	瓶井 修	日本メディカル福祉専門学校
5	山田 裕之	大阪総合デザイン専門学校
6	藤原 和宏	ホスピタリティ ツーリズム専門学校大阪
7	重田　大	大阪ベルェベル美容専門学校
8	栗本 真里	中央工学校OSAKA

〈B〉教育支援

氏名		所属
1	白石 一幸	ECC国際外語専門学校
2	冨永 桂多	関西外語専門学校
3	岡 猛	大阪文化国際学校
4	平岡 憲人	清風情報工科学院
5	五十嵐 世騰	修成建設専門学校
6	源野 幸次	大阪バイオメディカル専門学校
7	中山 羊奈	大阪YWCA専門学校
8	桝 豪司	近畿社会福祉専門学校
9	宋 海男	駿台観光アンド外語ビジネス専門学校
10	吉岡 智也	大阪調理製菓専門学校 ecole UMEDA
11	三分一　誠	ホスピタリティツーリズム専門学校大阪

〈C〉就職支援

氏名		所属
1	山下 裕貴	修成建設専門学校
2	萩原 大作	エール学園
3	岡田 智幸	近畿社会福祉専門学校
4	前野 晃久	関西経理専門学校
5	瓶井 通	日本理工情報専門学校
6	木原 郁	清風情報工科学院
7	小島 賢久	森ノ宮医療学園専門学校
8	立山 英展	大阪YMCA国際専門学校

（4）会議の開催と連携・協力体制

①実施委員会（年2回）
企業・行政・教育機関等と連携を強化し、意見提言や実務協力を得る。また、今後の発展・活用について意見聴取を行った。
・2022年8月26日（金）　　・2023年2月10日（金）

②ワーキング会議（月1回）

事業実施のための現状と課題を共有・議論し、事業全般の計画策定・進捗管理を行い具体的に実行推進した。

・第1回2022年 6月17日（金）　　・第2回2022年 7月15日（金）
・第3回2022年 8月26日（金）　　・第4回2022年 9月16日（金）
・第5回2022年10月14日（金）　　・第6回2022年 11月18日（金）
・第7回2022年12月16日（金）　　・第8回2023年 1月27日（金）
・第9回2023年 2月10日（金）

③連携・協力体制（順不同）

【大阪府】
「専修学校留学生の学びの支援推進事業」の遂行にあたり、実施委員就任、行政の面からの協力及び助言を頂いた。

【大阪商工会議所】
「専修学校留学生の学びの支援推進事業」の遂行にあたり、実施委員就任、大阪の企業への周知と呼びかけの協力を得た。

【日本貿易振興機構（ジェトロ）大阪本部】
「専修学校留学生の学びの支援推進事業」の遂行にあたり、実施委員就任、企業の要望・留学生受入れの傾向など協力及び助言を頂いた。

【大阪観光局】
「専修学校留学生の学びの支援推進事業」の遂行にあたり、実施委員就任、広報面からの協力を頂いた。また大専各として、「留学生支援コンソーシアム大阪」に参加した。

【一般社団法人 Transcend-Learning 】
「専修学校留学生の学びの支援推進事業」の遂行にあたり、実施委員就任、就職支援の協力及び助言を頂いた。

【国立ホーチミン市師範大学】
「専修学校留学生の学びの支援推進事業」の遂行にあたり、実施委員就任、広報の協力及び海外の面からの助言を頂いた。

【日本語教育振興協会】
「専修学校留学生の学びの支援推進事業」の遂行にあたり、誘致広報、教育支援の協力及び助言を頂いた。

【一般財団法人職業教育・キャリア教育財団(以下、TCE財団)】
「専修学校留学生の学びの支援推進事業」の遂行にあたり、協力・連携した。

令和4年度文部科学省委託事業「専修学校留学生の学びの支援推進事業」
コロナ禍を踏まえた各地域における外国人留学生の戦略的受入に向けた体制整備
大阪型「専修学校留学生の学びの支援推進事業」2022
成果報告書

発行日　令和5（2023）年2月　第1版
受　託　一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会
住　所　〒534-0026大阪市都島区網島町6番20号大阪私学教育文化会館内
TEL：06-6352-0048　FAX：06-6352-7553

大専各公式サイト
http://www.daisenkaku.or.jp/

大専各留学生支援サイトTOP
https://study-osaka.com /

本気なら専門学校

大専各

一般社団法人
大阪府専修学校各種学校連合会